



用ヒズトアレハ裁判官見込ヲ以酌量  
減スル儀ハ適宜ナルベシ  
○八年第七号滋賀縣同 二月十九日  
清律白晝搶奪條凡白晝搶奪入財物者杖  
一百徒三年計贓重者加盜罪二等云々  
トアリ新律中白晝搶奪ノ條ナシ若シ犯  
者ヲラハ強盜ヲ以テ論シ適宜ニ減等レ  
可然哉又ハ八ヲ殺傷スルハ強盜入ヲ殺  
傷スルト同ク論シ可然哉○白晝搶奪ハ  
強盜律ニ依テ處分ス但情狀ヲ酌量シ減  
○九年第七号和歌山縣同 一月廿二日  
兩三ノ人家ニ密集シ強盜ヲ行ント謀リ  
未夕途ニ上ラヌ殺傷スレハ不應為重ニ  
可問哉○盜情頭跡アツテ拾置キ難キ者  
ハ律例第百三十條ニ依リ酌減スベシ  
○九年第十一号

東京上等裁判所同 二月二日  
強盜條ニ云ク強盜武器ヲ持セズ威カラ  
以テ人ヲ劫シ云々財ヲ得ル者ハ賊ヲ分  
タスト要賍ヲ供セ罪ヲ科ストアリ假令  
ハ爰ニ強盜トアリ罪乙共ニ重ニ入リ  
財物ヲ奪取シ去ル後乙ヲ捕獲シ之ヲ鞫  
問スルニ甲ノ財物ヲ持去ルノ罪メタリ  
ト重直ニ逃走シテ再會セズ將ク其贓已

明治十年司  
法省第三  
十二号 四月  
廿五号  
明治九年第  
七十四号公  
布ヲ以テ私  
信官物律例  
ヲ破棄スル  
件右處分方  
ノ儀太政官  
ノ伺出案處  
監臨主守官  
金數ヲ私使  
用強通スル  
者監守盜  
ヲ以テ論ス  
ヘキ旨御格  
令有之矣ニ  
付爲心得  
相違テ事  
○九年第十四号  
凡持兇器強盜財ヲ得スト虽モ八ヲ殺傷  
スル者ハ皆斬首ニ入リ財ヲ搜セズ外ニ  
在テ贓望シ財物ヲ持過スル者贓ヲ分テ  
分タサルヲ論セス本犯ニ一等ヲ減ス

凡監臨主守自ヲ監守スル所ノ財物ヲ  
盜ム者ハ首從ヲ分クテ贓ヲ併セテ罪  
ヲ論シ竊盜ニ二等ヲ加フ。

一兩以下杖七十  
一兩以上杖八十  
一十兩以上杖九十  
二十兩以上杖一百  
三十兩以上徒一年  
四十兩以上徒一年半  
五十兩以上徒二年  
六十兩以上徒二年半  
七十兩以上徒三年  
八十兩以上流一等  
九十兩以上流二等

凡監守自盜財ヲ得ル者ハ懲後六十日  
同九年七月十八日第百一号御布告  
改定律例中左ノ條例ヲ增加シ第百  
二十六條ヲ刪除シ並ニ明治六年七  
月第百七号布告監守盜常人盜  
條例左ノ通改正候條此旨布告候事

凡監守盜二百圓以上及ヒ常人盜三百  
圓以上杖ニ處スル律ヲ改メ監守盜  
百五十圓以上常人盜二百五十圓以  
上並ニ懲後終身  
監守盜條例  
凡監守盜再犯ル者ハ財ヲ得ト雖モ一  
ヲ加フ三犯三十圓以下懲後十年三十

一百兩以上流三等  
二百兩以上絞  
常人盜

圓以上懲後終身  
常人盜條例  
第百二十六條 凡人官ノ財物ヲ盜  
ム者二百五十兩以上絞ニ處スル律ヲ改  
メ三百圓以上懲後終身三百圓以下絞  
同六年七月二十四日第百六十七号  
御布告

一兩以下杖六十  
一兩以上杖七十  
一十兩以上杖八十  
二十兩以上杖九十  
三十兩以上杖一百  
四十兩以上徒一年  
五十兩以上徒一年半  
六十兩以上徒二年

常人盜條例  
凡常人盜再犯ル者ハ財ヲ得スト雖  
モ一等ヲ加フ三犯四十圓以下懲後  
終身四十圓以上絞  
同九年七月十八日第百一号御布告  
常人盜條例

新律綱領 ○賊盜律

改定律例 ○賊盜律

ハ本犯室ニ入り未タ一物ヲ搶奪シ得  
ス遊々事主ヲ及備シ仍ホ格門ス在外  
望者此騷擾ヲ聞キ為ス丹ヲ知ラス直ニ  
遁逃ス右ハ後傷ニ與ラスト云テテ論  
シ本犯ニ一等ヲ減セシテ將タ本犯ト同  
ク斬罪ニ處セン事○本犯ニ一等ヲ減ス  
可シ

○其強盜兇器ヲ持スル者財ヲ得スト  
首ハ絞從ハ懲役終身未タ行ハスト雖モ  
已ニ途ニ在テ捕ニ就キ盜情顯跡アル者  
ハ持兇器ハ懲役三年已ニ兇器ヲ持シ  
主ノ家ニ至リ門戶墻壁ヲ破壞シト爲  
ルニ準主若クハ近隣ニ覺察傳報セラレ  
直ニ該兇器ヲ逃去ル如キハ未得財ヲ以テ  
論セン事將タ未タ行ハサル者ヲ以テ論  
セン事○未得財ヲ以テ論シ酌量減等ス  
ベシ

○八年第六十四号水澤縣伺 二条自第一  
強盜未タ空テ財ヲ搜セス外ニ在テ  
望シ云々本犯ニ一等ヲ減スル例等百  
二十八條ニ明文アリ竊盜律例中右等ノ  
明文無之ニ付竊盜ニ於テハ室ニ入り財  
ヲ搜セス外ニ賊望スル者モ減等ニ及  
ハス可然哉

七十兩以上。徒二年半  
八十兩以上。徒三年  
九十兩以上。流一等  
一百兩以上。流二等  
一百一十兩以上。流三等  
二百五十兩以上。絞

強盜

凡強盜兇器ヲ持セス威力ヲ以テ人ヲ劫  
財ヲ得ル者。皆徒二年。財ヲ得ル者ハ。賊  
ヲ分スト雖モ。賊ヲ併セ。首從ヲ分ス。罪  
ヲ科ス。人ヲ殺ス者ハ。皆斬。人ヲ傷スル者。財  
ヲ得サルハ。首從ヲ分テ。財ヲ得ル者。絞  
其兇器ヲ持スル者ハ。財ヲ得スト雖モ。皆流  
二等。人ヲ殺ス者。皆斬。人ヲ傷スル者。財ヲ

凡常人盜再犯スル者ハ。財ヲ得スト雖  
モ。一等ヲ加テ。三犯四十圓以下。懲後  
十年。四十圓以上。懲後終身。

改正強盜律

第百二十七條 凡強盜兇器ヲ持セス  
威力ヲ以テ人ヲ劫シ。財ヲ得ル者。皆懲  
後二年。財ヲ得ル者。賊ヲ分ス。雖モ。賊  
ヲ併セ。首從ヲ分テ。罪ヲ科ス。人ヲ殺  
ス者ハ。皆斬。人ヲ傷スル者ハ。皆絞。其後傷  
ニ與ラサル者ハ。止テ盜罪ヲ科ス。  
其兇器ヲ持スル者ハ。財ヲ得スト雖モ。首

○伺之通  
○八年第六十四号白川縣伺 五本ノ内  
清律賊盜律公取竊取皆爲盜條ニ曰器物  
錢帛之類須領徒已離盜牙方謂之盜ト有  
之器物等ハ八手能ク隠藏ス可キ者ニテ  
ラズ故ニ官私ヲ別タス盜牙ヲ離ルルハ  
得罪ヲ以テ論シ候儀ニテ律例ニ其義不  
相見若シ器物錢帛ノ類ヲ盜ム者有之候  
ハ。官私ヲ別タス清律ノ通り已ニ盜牙  
ヲ離ルル者ハ。財ヲ得ルヲ以テ論シ各本  
律ニ依リ其罪ヲ科シ若シ盜牙ニ在テ未  
タ財物ヲ得サル者ハ。未得財ヲ以テ論シ  
可然哉但シ盜牙ニ在ルルハ。限令ハ。一ト開  
見答ラル。者ヲ云フ可キ事然レハ。若シ  
之ヲ決ノ間ニ。檢見答ラル。者ハ。即チ  
盜牙ヲ離ルル。但書其伺ノ通  
○前同條ニ曰珠玉金貨ノ類據入手隠藏  
縱在盜牙未將行亦是爲盜ト有之珠玉金  
貨等ハ。其物輕微隨テ。檢匿シ易シ故ニ盜  
牙ニ在リト雖モ。既ニ手ニ入ルレハ。即チ  
之ヲ得財ト爲シ候儀ニテ。是亦律例ニ其  
儀不相見若シ右同犯ノ者有之候ハ。各  
本律ニ依リ已ニ手ニ入レ隠藏スルト否  
トヲ以テ。得財不得財ヲ區別シ處分仕候  
テ可然哉○伺ノ通

得サルハ。首從ヲ分テ。財ヲ得ルハ。皆斬  
其藥酒等ヲ以テ。人ヲ醉迷セシメ。財ヲ  
圖ル者ハ。不持兇器ヲ以テ論ス。  
若シ盜ニ因テ殺スル者ハ。成否ヲ論セテ絞  
不持兇器  
五兩以下。徒二年半  
五兩以上。徒三年  
一十兩以上。流一等  
一十五兩以上。流二等  
二十兩以上。流三等  
三十兩以上。絞○再犯ハ。財ヲ得スト  
雖モ。絞

ハ。絞從ハ。懲後終身。財ヲ得ル者ハ。皆斬  
其財ヲ得スト雖モ。人ヲ殺傷スル者。亦同  
レ。其藥酒等ヲ以テ。人ヲ醉迷セシメ。財ヲ  
圖ル者ハ。不持兇器ヲ以テ論ス  
若シ盜ニ因テ殺スル者ハ。成否ヲ論  
セテ。絞  
不持兇器  
五圓以下。懲後二年半  
五圓以上。懲後三年  
十圓以上。懲後五年  
十五圓以上。懲後七年  
二十圓以上。懲後十年  
三十圓以上。懲後終身○再犯ハ。財  
ヲ得スト。雖モ。懲後終身。

新律綱領 ○賊盜律

故定律例 ○賊盜律

○前同條ニ曰其水石重器非人カ所勝雖  
 獲本府未賦載開捕未成盜ト有之右ハ他  
 入已ニエカヲ用ヒ砍代シ置テ財米其他  
 石及ヒ重器等重大ノ物ニシテ人カノ報  
 シ挙動シ難キモノヲ云ヒ既ニ本處ヲ移  
 スモ未タ賦載セサル間ハ仍ホ未得財ヲ  
 以論シ候義ニテ是亦律例ニ其義不相見  
 若シ右同犯者有之候ハ、清律ノ通區別  
 致可然哉果シテ然ラハ官私林ノ竹木ヲ  
 盜伐シ進テ取寄候存存ニテ其儘開キ裁  
 日ヲ経仍其場ニ有之内裁覺スル者其竹  
 木已ニ伐終リ復生ノ理ナシトモ仍ホ  
 各本律ニ依テ論シ可然哉○前段ハ清律  
 ノ通リ官私山林ノ竹木ヲ盜マント欲シ  
 砍伐スル者未タ賦載セサルハ盜トナサ  
 ス棄毀器物ヲ以テ論ス  
 ○前同條ニ曰馬牛駝羸之類須出圍圍  
 犬ノ類須專制在已乃成爲盜ト有之馬牛  
 等ハ圍圍ヨリ牽キ出スヲ須テ得財ト爲  
 シ鷹犬ノ類ハ已ニ羈繫ニ就キ專制已シ  
 ニ在ルテ須テ得財ト爲ス義ニテ是亦律  
 例ニ據見若右同犯ノ者有之候ハ、官  
 私ヲ別タテ清律ノ通區別致シ可然哉但  
 本條ノ頭書ニ曰若シ馬一匹ヲ盜ミ判  
 之ニ隨ハ固ヨリ偶然ノ事ニテ之ヲ盜ム

五兩以上絞  
 一十兩以上斬○再犯ハ財ヲ得スト  
 雖モ斬

強盜條例  
 第二百二十八條 凡強盜未シ室ニ入り  
 財ヲ搜セス外ニ在テ瞭望シ財物ヲ  
 接遞スル者ハ賊ヲ分チ分チサルヲ  
 論セ入本犯ニ一等ヲ減ス其造意者  
 ハ此限ニ在ラス  
 第二百二十九條 凡強盜脅誘セラレ畏  
 懼隨行シテ室ニ入り賊ヲ分者ハ本  
 犯ニ二等ヲ減ス若シ室ニ入ルト雖  
 モ賊ヲ分ス及ヒ止ク外ニ在テ瞭望  
 シ財物ヲ接遞スル者ハ賊ヲ分チ分チ  
 ルヲ論セス並ニ三等ヲ減ス

○九年第七号度會縣例 一月廿二  
 盜ト林スルハ人ノ財物ヲ竊取シテ其  
 跡ヲ隠ス者ヲ謂フ手然ルニ譬ハ他人ノ  
 家ニ忍入テ財物ヲ取リ其財物ヲ借用ス  
 ル者ヲ書記シ己カ名ヲ頭ハシテ遺シ去  
 ルカ如キハ其跡ヲ隠シ各ヲ知ラレン  
 テ恐ルノ類ニ非ス他日必ス逐濟ノ念  
 アル者ナレハ竊盜ト云可カラスト雖モ  
 之ヲ改正私借官物律監守者官ノ財物ヲ  
 私ニ借用スル者及ヒ雇人盜家長財物律  
 管守者私ニ自ラ借用スル者ノ權衡ニ比  
 スレハ亦盜ト罪同シカルヘキ哉  
 ○人ノ家ニ忍ヒ入り財物ヲ取ル者ハ即  
 ナ竊盜ナリ候借ハ双方約定ニテ成ルモ  
 ノナリ假令一方ニテ借リタルト云フモ  
 事主ニ於テ承諾セサレハ借用トナス可  
 カラス  
 ○九年第十三号京都裁判所例 二月七  
 強盜未シ行ハスト虽モ已ニ途ニ在テ捕  
 二就キ盜情頭跡アル者ノ處置方例百三  
 十條ニ明文アリ若シ然レハ竊盜ヲ行フ

新律綱領

改定律例 ○賊盜律  
 第三百十條 凡強盜未シ行ハスト雖モ已  
 ニ途ニ在テ捕ニ就キ盜情頭跡アル者持  
 兇器ハ懲後三年不持兇器懲後百日  
 第三百十一條 凡強盜同居ノ父母  
 兄弟姊妹等情ヲ知テ賊ヲ分ツ者ハ  
 凡人ト同ク分ツ所 賊ヲ計ヘ竊盜  
 ニ準レ從ト爲レテ論ス  
 第三百十二條 凡失火及ヒ破船等ノ  
 難ニ乘テ財物ヲ竊取スル者ハ竊盜ヲ以  
 テ論シ搶奪スル者ハ強盜ヲ以テ論ス  
 第三百十三條 凡盜犯門戶牆壁ヲ破  
 壞シ人覺知スルヲ畏懼セザル者ハ強盜ヲ  
 以テ論シ若シ火ヲ用ヒ鎖鑰ヲ燬損シ及  
 ヒ鑿鑿等ヲ以テ戸壁ヲ穿ツ雖モ強



林ニ係レハ一等ヲ加ヘ並ニ破廉耻甚ク  
以テ論ス盗ムノ意ナク故ナラニ伐採ス  
ルナレハ兼毀稼穡律ニ依ルヘレ  
○九年第十一号日川縣同二月二日  
八年三月第三條後項官私林ノ竹木ヲ盜  
伐シ追テ取寄候存ニテ其儘間キ數日  
ヲ經仍ホ其場ニ有之内發見スル者ハ其  
竹木後生ノ理ナレト魚仍ホ各本律ニ依  
リテ論裁ニ官私林ノ竹木ヲ盜マント欲  
シテ伐スル者ホテ毀載セサルハ盜トナ  
サス毀載物ヲ以テ論ストアリ云々若  
レテ林ニシテ此罪ヲ犯シテ律ニ依リ  
處スルハ例第六十條ニ依リ間刑ニ換  
ヘ禁獄ニ處セサヤハ不相成空スレハ其  
始盜心ヲ生レテ伐伐シテ既ニ破廉  
耻甚ノ罪ヲ有スルヲ其後發見ノ重ヲ措キ  
間刑ノ輕ニ處スルハ例七十五條ニ依リ  
ス故ニ云々平民犯スルハ却指令ノ通意  
毀器物ヲ以テ論シテ株犯セハ除株ニ處レ  
一事形名異ナルモ各重ニ從テ科斷可然  
○九年第六号政令縣同三月五日  
凡テ寺院門牆完クテ諸人ノ通り抜ケテ  
默許レテ之ニ從テ諸人ノ通り抜ケテ

凡常人官ノ厩欄牧場ノ牛馬ヲ盜ム者 ハ、贓ニ計、常人盜ニ準テ論シ、監守 人自ラ盜ム者ハ、監守盜ニ準テ論シ、 民間ノ牛馬ハ、竊盜ニ準テ論ス、並ニ 罪流三等ニ止ル	凡常人官ノ厩欄牧場ノ牛馬ヲ盜ム者 ハ、贓ニ計、常人盜ニ準テ論シ、監守 人自ラ盜ム者ハ、監守盜ニ準テ論シ、 民間ノ牛馬ハ、竊盜ニ準テ論ス、並ニ 罪流三等ニ止ル	凡常人官ノ厩欄牧場ノ牛馬ヲ盜ム者 ハ、贓ニ計、常人盜ニ準テ論シ、監守 人自ラ盜ム者ハ、監守盜ニ準テ論シ、 民間ノ牛馬ハ、竊盜ニ準テ論ス、並ニ 罪流三等ニ止ル	凡常人官ノ厩欄牧場ノ牛馬ヲ盜ム者 ハ、贓ニ計、常人盜ニ準テ論シ、監守 人自ラ盜ム者ハ、監守盜ニ準テ論シ、 民間ノ牛馬ハ、竊盜ニ準テ論ス、並ニ 罪流三等ニ止ル
--	--	--	--

力等其寄託ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム  
者ハ、並ニ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加  
ヘ、罪懲役終身ニ止ル  
盜官私牛馬條例  
第四百四十條 凡官私牧場牛馬ヲ盜ム  
者ハ、律ニ照シテ罪ヲ科シ懲役十年  
ニ止ルヲ除ク外其官ノ厩欄ノ牛馬  
ヲ盜ム者ハ、常人盜ヲ以テ論シ、監守  
人自ラ盜ム者ハ、監守盜ヲ以テ論シ、  
民間厩欄ノ牛馬ハ、竊盜ヲ以テ論ス、  
若レ盜テ殺ス者官ニ係ルハ、懲役一  
年、私ニ係ルハ、一等ヲ減ス、贓ニ計ハ  
本罪ヨリ重キ者ハ、前ニ照シ、各盜罪  
ヲ以テ論シ、一等ヲ加フ。

新律綱領 ○盜賊律

改定律例 ○賊盜律

若シ鳴謝欺其他總テ律上ノ盜盜犯ヲ  
主私和スル時ハ、矢張リ此例ニ依リ  
テ量リ違或輕重ニ間擬シ、聽斷シ、判ニ財  
ヲ受ル者ハ、狂注ニ準シ、財ヲ過スルハ、  
竊盜過錢ニ準シテ論シ、可然裁、同之退  
○八年第九号筑摩縣同三月十日  
自己ノ牛馬若シテ其用ニ供セサルヲ  
以テ故殺スル者ハ、罪不問ニ置テ可然裁  
○同之退、但シ其罪ヲ規則ニ犯スニ係ル者  
○八年第九号筑摩縣同  
持今、官有地ノ竹木ニ係ルハ、常人盜ニ  
準シ、民有地ノ竹木ハ、竊盜ニ準シテ論ス、  
其積草ノ類價直ニアケラサルモ、ハ、違  
式ニ間フ  
○九年第七号和歌山縣同二月廿二日  
神官僧侶社寺境内官私ノ樹木ヲ伐採シ  
既ニ禁斷シテ自己ノ用ニ充ント欲シテ  
未ク費用セナル者ハ、竊盜未得財ニ依リ、  
破廉耻甚ク以テ論ス、可キ裁、若シ此禁斷  
半ハ、神祭律事ニ供スレハ、罪俱發律ニ  
可依、歟、若シ瑣抄ノ枝葉ヲ伐シテ禁斷  
トナレ一時自己ノ費用ニ充ルモ、仍ホ竊  
盜及ヒ常人盜ニ準シテ可論裁、○樹木ヲ  
盜伐スル者私林ニ係レハ、竊盜ニ準シ、官

四十兩以上杖一百	五十兩以上徒一年	六十兩以上徒一年半	七十兩以上徒二年	八十兩以上徒二年半	九十兩以上徒三年	一百兩以上流一等	一百一十兩以上流二等	一百二十兩以上流三等	三百兩以上絞
----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	------------	------------	--------

重ニ從テ論ス  
第三百三十九條 凡盜賊ヲ以テ竊盜ニ準  
主ニ投還スル者ハ、未得財ヲ以テ論  
シ、懲役四十日、若シ贓虧缺スル者ハ、  
ル者ハ、虧缺スル所ノ數ヲ計ヘ、盜罪  
ヲ科ス。  
同六年七月二十三日第七百六十六號  
御布告  
竊盜條例  
凡竊盜四犯財ヲ得ル者ハ、贓ノ多寡ヲ  
論ヒス、懲役終身  
同九年五月十九日第七十四號御布告  
竊盜條例  
凡客塵倉戶及ヒ工人舟子脚人馬丁車

公然通行スル境内或ハ門牆完カラサル  
邸宅ノ周圍一方通路ニ接レ行人容易ニ  
出入スヘキ界内等ニテ其家屋ノ戸外ニ  
概テタル干レ物或ハ器具ヲ劫取スルハ  
戸内ニ忍入室内ノ物ヲ劫取スルヲ其内外  
輕重大ニ分別アルニ似タリ此ハ賊  
盜律盜田野穀麥黍人ノ看守スルヲ無キ  
器物ヲ盜ムニ比擬シ準盜律ヲ以テ可論  
或道路通行ノ場所ニ當ル戸外ノ物  
ヲ盜ムニ原ト人ノ看守ヲ設ケス及ヒ守  
ヲ持テル者ナハ伺ノ通進盜ヲ以テ論ス  
若レ戸外ニ在リト雖モ人ノ看守ニ係ル  
者ハ此限ニ在ラス  
○八年第五九号滋賀縣同 三月十二日  
親屬ノ印ヲ盜ム者モ亦親屬相盜條減  
ノ權衡ニ依リ減等シテ可然哉何ノ通  
○指令録第五号京都裁判所同 三月十二日  
指令各官高曾祖父母玄曾孫及孫ノ相盜  
ハ親屬相盜律ニ依ルヘレ  
指令各居ノ嫡継母庶子相盜ハ親屬  
相盜律ニ依ルヘレ  
指令各居妻妾相盜ハ親屬相盜律ニ  
依ルヘレ  
○八年第五九号滋賀縣同 三月十二日

**盜田野穀麥**  
凡田野ノ穀麥菜葉及ヒ人ノ看守スル  
ノ無キ器物ヲ盜ム者ハ並ニ賊ニ計シ  
竊盜ニ準シテ論ス罪流三等ニ止ル  
若シ山野ノ柴草木石ノ類他人已ニ工  
力ヲ用ヒテ研伐積聚スルヲ擯ニ取去  
スル者モ罪亦同  
**親屬相盜**  
凡各居五等ノ親財物ヲ相盜ム者ハ凡  
人ニ一等ヲ減シ四等三等二等ノ親ハ  
各一等ヲ減ス若シ強盜ヲ行フ者尊  
長卑幼ヲ犯スハ各上ニ依テ罪ヲ減ス  
卑幼尊長ヲ犯スハ凡人ヲ以テ論ス若  
シ殺傷スルヲアル者ハ過誤ニ出ルト

**親屬相盜條例**  
第百四十二條 凡文武百工技藝ノ人  
受業師ノ財物ヲ竊取ル者ハ竊盜ニ  
準シテ論シ罪懲後十年ニ止ル其各  
居ニ係ル者ハ竊盜ヲ以テ論ス若レ  
強奪スル者ハ凡人強盜ヲ以テ論ス  
第百四十一條 凡官ノ牛馬ノ故殺ス  
ル者ハ懲後百日民間ノ牛馬ハ一等  
ヲ減ス若レ賊ニ計シ水罪ヨリ重キ  
者官ニ係ルハ常人盜ニ準私ニ係ル  
ハ竊盜ニ準シテ論シ並ニ罪懲後十年  
ニ止ル

路上行人ノ荷物其貨物盜取セントス  
ルノ意念ヨリ人足稼ノ体ニ許リ荷物ヲ  
搬運セント欺キ之ヲ受取テ考テ逃走ス  
ルハ其寄託ヲ受ノ後之ヲ盜トシ少シ其  
異レテ招帶ニ似タリ雖モ如此者ハ仍茲  
竊盜ヲ以テ論シ可然哉何ノ通  
○八年第四十四号廣田縣同 三月十二日  
雇人他人ヲ將ヒテ家長ノ財ヲ盜ム者ハ  
雇人ハ借人ヲ以テ論シ他人ハ竊盜ノ  
從ヲ以テ論シ可然哉何ノ通  
○八年第五号大分縣同  
文ニ丁銀ヲ借進タル者アリ右ノ通進ニ  
其之ニ付七年廿一號御指令ヲ援引シ  
金銀ノ器物ヲ偽造スル者ト見做レ其所  
得ノ利ニ計シ竊盜ニ準シ可論決  
處其情ヲ知テ偽造ニ買取他ノ詐欺ニテ  
高利ヲ得ル者モ懲盜ニ準シテ得ル處  
ノ贓ハ原價ヲ引キ全ク得ル花利ノミ  
贓ニ計シ可論云云(廣田縣)知テ買  
取ノ利ヲ得ル者ハ其得ル所ノ花利ヲ贓  
ニ計シ竊盜ニ準シテ論ス  
○八年第五号鳥取縣同 三月十二日  
甲出訴ノ事アリ右ノ其取訴ノ委託人  
丙素ヨリ出訴ノ手續ヲ知ラレ共其處

雖モ各殺傷尊長卑幼ノ本律ニ依リ重  
キニ從テ論ス  
若シ同居ノ卑幼他人ヲ將ヒテ己ノ家  
ノ財物ヲ盜ム者卑幼ハ私擅用財物律  
ニ依テ論シ二等ヲ加フ罪杖一百ニ止  
ル他人ハ凡盜罪ニ一等ヲ減ス若シ殺  
傷スルヲアル者ハ各殺傷尊長卑幼ノ  
本律ニ依リ他人ハ縱ヒ情ヲ知ラスト  
雖モ強盜ヲ以テ論ス若シ他人殺傷スル  
者ハ卑幼縱ヒ情ヲ知ラスト雖モ強盜  
傷尊長卑幼ノ本律ニ依リ重キニ從テ  
論ス  
奴盜家長財物  
凡奴婢雇人家長ノ財物ヲ盜ム者凡盜

**改正雇人盜家長財物**  
第百四十三條 凡雇人家長ノ財物ヲ  
盜取ル者ハ凡盜罪ニ準シテ論ス若シ  
強奪スル者ハ凡人強盜ヲ以テ論ス  
○八年第五号鳥取縣同 三月十二日  
○八年第五号鳥取縣同 三月十二日

新律綱領

改定律例

○賊盜律





四 裁判費用等可財産律ニ依リ可擬所成  
 一七 金銀ノ半枚ヲ計ニ計ハ担荷ヲ以テ論ス  
 第四條ノ全ニ於ルヤ既ニ丙ニ於テ乙ノ  
 家器ヲ書入ニシタル証書ヲ所持スルニ  
 依リ假令其金額ハ甲ノ持去ルニ係ルモ  
 丙ハ丙ヨリ乙ニ懸リ金額ノ償還ヲ請求  
 スル權理ヲ有スル者トシテ丙ヨリ丙ニ  
 處分ニ任セ刑責ニ於テハ止マレニ據テ  
 ノ言渡スル後ト心得可然故同ノ通  
 ○八年第廿五号東京裁判所同三月八日  
 七年六月十二和京ノ未決ニ云ク收贖ヲ  
 スト有之又福島縣同特令ニ支取ニ因リ  
 門限ヲ生レ又ハ共ニ逃去ノ未捕獲ニ  
 獄庭ニ於テ支情ヲ吐露スト至モ本夫  
 コリ告訴スルニ非レハ支罪ハ罪ハ罪ト  
 有之右ハ共ニ逃去スルモ未決ニ問ハサ  
 ルモ前次秋田縣同特令ニ依リト和京ノ  
 罪ニハ坐レ後後心得可然故自己ノ妻  
 妾トナス者ハ同ノ通  
 ○八年第廿八号和歌山縣同三月二十日  
 ○他人ノ妻妾ヲ和賣シテ娼妓ト為ス者  
 ハ新律舊律和賣スル條ニ依リテ娼妓  
 ハ新律舊律和賣スル條ニ依リテ娼妓  
 八律例第百四十七條ノ略賣ノ罪ニ等  
 テ減ス

若シ監臨主守監守スル財物ヲ詐取ス  
 ル者ハ監守自盜ヲ以テ論ス未タ得レ  
 ル者ハ其詐取セント欲スル數ヲ計  
 二半ヲ減シ罪ヲ科ス  
 若シ人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲  
 及ヒ誣賈騙拐帶スル者モ亦賊ニ  
 計ハ竊盜ニ準テ論ス罪減三等ニ止  
 ル親屬ナラハ亦親屬竊盜律ニ依リ減  
 減シテ罪ヲ科ス

略賣人  
 凡人ヲ略賣シテ娼妓トスル者ハ成否ヲ論  
 セス皆流ニ等妻妾娼婢トスル者ハ徒二年  
 坐因テ人ヲ殺傷スル者ハ強盜ヲ以テ論  
 ス略セラル人ハ坐セス親屬ニ還付ス和  
 第百四十五條 凡人ヲ略賣シテ元雇人  
 ト爲ス者ハ懲役二年半其賤雇虐使  
 ヲ受シタル者ハ為娼妓律ニ依ル  
 第百四十六條 凡妻ヲ略賣シテ娼妓ト爲

一七五

○九年第六十一号新川縣同五月廿二日  
 略賣人條例人ヲ略賣シテ雇人ト爲スト  
 ハ間ニ威カト詐欺ノ意ヲ蓄ヒ年月ノ長  
 短ヲ論セス其人ニ承知サセスシテ自他  
 ノ雇人ト爲シ其給金ハ則己レ之ヲ盜有  
 スルカ如キ儀カ持テ年月ノ長短金田ノ  
 多寡ニ因リ處分ノ筋モ候哉○何ノ通  
 年月ノ長短金田ノ多寡ニ  
 同條和賣トハ其人トノニ相對ニテ年月  
 ノ長短給金ノ多寡且分配マテテ和談シ  
 只其親屬ニ告ケス或ハ其親屬ニモ對談  
 シテ賣ル者ノ類ニ可有之乎若然ラハ其  
 妻妾子孫ヲ和賣シ年月ヲ期シ他ノ雇人ト  
 爲スカ如キ貧困ノ者比皆是ナリ如此モ和  
 賣ヲ以テ論セサルヲ得サルニ似タリ如シ  
 賣買ト稱スレハ固ヨリ尋常雇人ト異ニ  
 シテ給金ト稱セハ若干金ヲテ賣與スル  
 ノ儀ニ付親子ノ情誼ヲ此ニ斷テ其人ノ  
 權利ヲ失ハシムル者ト爲ス片ハ預メ年  
 月ヲ期スル者ノ如キハ賣買ヲ以テ論セ  
 スンテ可然乎要スルニ人ヲ周旋シテ雇  
 人ト爲シ謝金ヲ受ンル者ト和賣シテ雇  
 人ト爲ス者トノ情狀判然區別致シ兼僱  
 ○和賣トハ相對ノ得心ト親屬和談トニ

誘スル者ハ各一等ヲ減ス其誘セラル  
 ノ人ハ各三等ヲ減ス十歳以下ハ和  
 ト雖モ略ヲ以テ論ス  
 其情ヲ知テ買フ者ハ各賣ル者ニ等  
 テ減シ牙保ハ又一等ヲ減ス

ス者ハ凡人略賣法ニ依ル和賣スル  
 者ハ懲役七十日  
 第百四十七條 凡子孫ヲ略賣シテ娼  
 妓ト爲ス者ハ懲役五十日妹姪及ヒ外  
 孫ハ各二等ヲ加ス  
 第百四十八條 凡人ヲ略シテ自己ノ  
 妻妾雇人ト爲ス者ハ略賣ト罪同シ  
 第百四十九條 凡人ノ妻妾略シテ他  
 人ノ妻妾ト爲シ及ヒ自己ノ妻妾ト  
 爲ス者ハ懲役五年人ノ妾ヲ略シテ  
 妻妾ト爲ス者ハ懲役三年和誘スル  
 者ハ各一等ヲ減シ誘セラル婦女  
 ハ各三等ヲ減ス  
 第百五十條 凡人ヲ略シテ外國人ニ

新律綱領 ○賊盜律

改定律例 ○賊盜律

拘ハラス賣渡ノ明証アル者ヲニフ年期  
 雇人ノ類ハ此限ニアラス  
 ○同條婦女トハ概シテ賣渡スル者ノ称  
 謂ト心得可然乎果シテ然ラハ賣渡シテ  
 藝妓ト為ス者如何處分可然哉○改定律  
 例第百四十五條ニ依リ処分スベシ  
 同條情ヲ知ラスシテ買フ者ノ明文無  
 之ハ勿論ニ措ク可キ事ト相心得候ヘ凡  
 其情ヲ推考アルニ和賣ハ蓋シ知ラスシ  
 テ買フ者ヲラン買賣ニ至テハ當初知ラ  
 スシテ買フト買畧セラルノ人後テ必  
 愁訴セン然レハ則買フノ後情ヲ知ル  
 者ハ之レアル可シ而シテ其情ヲ知ルト  
 虽モ放逐セス又其父兄ニ通告セサル者  
 ノ如キ如何可處哉○初メ知ラスト虽モ  
 後テ知テ放逐セサレハ知ル者ト同ク  
 論ス

○指令録第五号京都裁判所同  
 八号名東縣ヨリ某甲其食養生ノ資ナシ  
 中賣女ニ藝妓致サセシ同ニ不問ニ置  
 キ其身代金ハ云々ト又壬申ニ本省布達  
 二人ノ子女ヲ金取上ヨリ云々  
 重所置事トアルモ右同縣同ノ如其夫女  
 ヲ抵當ニ差入金田借用スル類ハ債主買

賣ル者ハ成否ヲ論セス皆懲役十年  
 因テ人ヲ傷スル者ハ皆懲役終身  
 ス者ハ皆斬其和誘スル者ハ一等ヲ  
 減シ誘セラル人ハ三等ヲ減ス若  
 シ子孫ヲ略シテ外國人ニ賣ル者ハ  
 懲役一年和賣スル者ハ一等ヲ減ス  
 和畧未タ成サラル者ハ和略ノ罪ニ  
 又一等ヲ減ス賣ラルノ身幼ハ和ス  
 ト雖モ坐セス若シ外國人ヲ買フ者  
 ハ前ニ照レテ各一等ヲ減ス  
 兇徒聚衆條例  
 第百五十一條 凡兇徒聚衆ノ徒ニシ  
 テ情輕キ者ハ懲役三年  
 第百五十二條 凡附和隨行シテ火ヲ

債主各罪ヲ不問シテ可然哉然ト虽モ  
 号東京裁判所同貸金ノ方ニハ不問ニ置  
 引取シ條時正忠ノ探律ニハ不應為重云  
 々ト前後兩岐ニ涉ル併其正忠ナノ御所  
 置ハ名東縣同以前ノ犯ニ依リ向後同縣  
 ノ犯者アリトモ右同縣ヘノ御指揮ヲ後  
 引シ不問ニ可措哉若然ハ右ニ對御布達  
 三項ハ已ニ御取消ト心得可申哉將其  
 御布達ノ明文ニアル如養女ノ名目アル  
 者ニ限仍ホ罪ヲ問フ可キモ之アルヤ  
 ○壬申十月本省第廿二号布達存スル  
 小呂キ其賣買ノ証憑ヲ信認セサルニ  
 於テハ和畧賣人律例ニ擬スルヲ得ス東  
 京裁判所處分ノ如キハ一般ノ例ニハ不  
 相宜ト心得ヘシ  
 ○九年癸十三号京都裁判所同  
 無夜人家内ニ入ル者其送誤或ハ醉亂  
 等ニ因ルノ犯ヲ除クノ外若シ強盗ノ際  
 ヲ為ス可キ所存ニ入込シ旨判然申立ル  
 二於テハ是亦強盜ニ行真犯ヲ以テ論  
 シ懲役四下日ヲ科シ犯數ニ計フ可キヤ  
 將シ右ハ止メ宜ニ入ルノミニテ亦  
 ヲ搜セサルニ依リ仍ホ本律懲役三三  
 ヲ科シ學士族ハ破廉耻ヲ以テ論ス

兇徒聚衆  
 凡兇徒聚ヲ聚メ村市ヲ毀壞燒亡財  
 物ヲ劫奪シ若シハ人民ヲ殺死スル者  
 造意ハ斬從ハ流三等從ノ手ヲ下シ人  
 殺シ火ヲ放ツ者ハ絞其止テ附和隨  
 行ノ場ニ在テ勢ヲ助ハル者ハ論スル  
 勿レ  
 若シ地方ノ凶荒ニ乘リ衆ヲ聚メ良民  
 ヲ擄害シ官長ヲ挾制シ及ヒ賑貸稍違  
 キニ因テ村市ヲ擄奪シ官廨ニ喧鬧シ  
 及ヒ私憤ヲ懷挾シ衆ヲ聚メ市ヲ罷  
 ノ官ヲ辱ムル者並ニ首ハ絞從ハ流三  
 等其餘ノ附隨ハ亦論スル勿レ

放ツ者ハ從ニシテ火ヲ放ツ者ニ二  
 等ヲ減シ懲役十年其脅誘セラレテ  
 火ヲ放ツ者ハ懲役三年其餘牆屋ヲ  
 毀ツ者ハ不應為重ニ問フ其止テ場  
 二在テ勢ヲ助クル者ハ勿論ノ律ヲ  
 改メ違令ニ問ヒ輕重ヲ分テ賅罪ス  
 ルヲ聽ス  
 第百五十三條 凡衆ヲ聚メ訟ヲ構ヘ  
 官ニ強逼スト雖モ良民ヲ擄害スル  
 ニ至ラサル者首ハ懲役十年從ハ一  
 等ヲ減ス從ニシテ情輕キ者ハ二等  
 ヲ減ス  
 第百五十四條 凡地方官督撫ニ失シ  
 民衆ノ騷擾ヲ致シ及ヒ兇徒聚ヲ聚

新律綱領

○賊盜律

改定律例

○賊盜律

⑤ 盜竊頭然タル者ハ窃盜未得財ヲ以テ論シ破産罪ト爲ス別ニ所存アリテ入込シテハ無故入人家律ニ依ル

○ 夜故入人家ニ入ル者ハ懲役三十日トアリ右ハ其家屋ト牆垣内ニ入ル者トノ區別ハ之ナキヤ其止メ牆垣内ニ入ル者ハ家内ニ入ル者トハ稍輕重アルニ似タリトモ其牆垣内ニ入ル者モ仍ホ此律ニ依リ裁判官ノ意見ヲ以テ酌量減等ス可キ哉

○ 人家トアルハ接近ノ場所ニテ戸締アル垣牆内ハ人家ト同シシ者倣スヘシ

○ 八年第五号長崎裁判所例

凡律例ニ數人罪ヲ犯スヤ其首罪重ク後罪輕ク況ヤ其人ニ因リ連累シテ罪ニ致ス者ノ如キニ至テハ其罪重ト必キ本犯ノ罪ニ起ルナキト各條ニ準テ明又アリ然ニ累賈人條ニ其情ヲ知テ買フ者ハ賣ル者ニ一等ヲ減シ牙保ハ又一等ヲ減ストアリ又賊盜竊主條ニ累賈和誘ノ賊ニシテ知テ受ル者ハ各賊ニ計ヘ窃盜ニ準シテ爲シテ論ストアリ右ハ累賈ノ牙保ヲ爲ス者若シ其罪ヲ受ル片ハ仍ホ竊主條ニ照シ其罪ニ計ヘ重ニ從テテ論ス

夜無故入人家

凡夜故無シシテ人家ニ入ル者ハ答三十家主即時ニ殺死スル者ハ論スルヲ勿レ其己ニ拘執ニ就クヲ撞ニ殺傷スル者ハ問後傷ニ二等ヲ減ス

メテ潛匿スルヲ覺察セズ卻テ他管ニ覺知セラル者ハ懲役百日輕キ者ハ懲役七十日

夜無故入人家條例

第五十五條 凡黑夜田野ノ藪麥等菓ヲ竊取シ或ハ白日人家ニ入り及市井田野人ノ看守スル器物ヲ盜ムニ事主看守人追捕毆打シテ死ニ至ル者ハ盜罪ヲ離ルト否ハ賊ヲ得ルト否ト問テ懲役二年其己ニ拘獲ニ就クヲ復タ毆打シ若クハ事後毆打シテ撞ニ殺傷スル者折傷以上ハ關毆傷ニ一等ヲ減ス若シ盜犯兇器ヲ持シ拒捕スルニ即時格闘殺死スル者ハ罪

ヘキ處例第百四十七條子孫ヲ略賣シテ娼妓ト爲スノ牙保其罪十口以上ヲ受ル者等ノ如ハ其累賈スル本犯ハ律ニ照シ懲役五十日其牙保ハ二等ヲ減シ懲役三十日ノ處罰金十圓以上窃盜ニ準シ役トナシテ論シ懲役六十日ニ處スル如キニ至テハ其罪却テ本犯ノ罪ヨリ重ク本犯輕重ノ推衡稍水平ナラサルヲ覺テ如何心得可然哉

○ 八年第十二号京都裁判所例

凡律例ニ數人罪ヲ犯スヤ其首罪重ク後罪輕ク況ヤ其人ニ因リ連累シテ罪ニ致ス者ノ如キニ至テハ其罪重ト必キ本犯ノ罪ニ起ルナキト各條ニ準テ明又アリ然ニ累賈人條ニ其情ヲ知テ買フ者ハ賣ル者ニ一等ヲ減シ牙保ハ又一等ヲ減ストアリ又賊盜竊主條ニ累賈和誘ノ賊ニシテ知テ受ル者ハ各賊ニ計ヘ窃盜ニ準シテ爲シテ論ストアリ右ハ累賈ノ牙保ヲ爲ス者若シ其罪ヲ受ル片ハ仍ホ竊主條ニ照シ其罪ニ計ヘ重ニ從テテ論ス

盜賊高主

凡強盜ノ高主造意スルハ身同ク行ハスト雖モ但ク賊ヲ分ツ者ハ行者ト罪同若シ同行ハス又賊ヲ分クサル者ハ徒二年其高主共ニ謀テ造意セス同行ヒテ賊ヲ分クス及ヒ同行ハスレテ賊ヲ分ツ者ハ行者ト罪同若シ其情ヲ知ラステ暫時停歇セシムル者ハ坐セス

若シ竊盜ノ高主造意スルハ身同ク行ハスト雖モ但ク賊ヲ分ツ者ハ首ト爲シテ論ス若シ行ハス又賊ヲ分クサル

人拒捕律ニ依ル

盜賊高主條例

第五十六條 凡盜賊タルヲ知テ典賣ノ牙保ヲ爲ス者ハ典賣スル所ノ數ヲ計ヘ坐賈ヲ以テ論シ一等ヲ減ス若シ別ニ金ヲ受ル者ハ窃盜ニ準シ從ト爲シ重キニ從テ論ス

第五十七條 凡典舖盜賊タルヲ知ラスト雖モ牙保ナクシテ典買スレハ物ヲ追シテ本主ニ給ス若シ牙保及ヒ回曆ヲ借ス者アレハ償ヲ償ハシム其償ヲ不能ハサル者ハ直チニ典舖ヨリ追ス

第五十八條 凡恐喝詐欺枉法不枉

新律綱領 ○ 賊盜律

改定律例 ○ 賊盜律

ノ犯スモ亦收賄ヲ聽スニ可有之哉  
 ◎伺ノ通  
 ○八年第廿八号新川縣伺  
 窃盜高主造意セシ行ハス賍ヲ分メサル  
 三犯ノ者初犯再犯右同断ニテ三犯ナル  
 并造意セシ行ハスシテ賍ヲ分ツ五拾円  
 以上ナル者  
 初犯再犯右同断ニシテ三犯ノ并真窃盜  
 賍金五拾円以上ノ者  
 初犯再犯右同断廢刑後明治六年第百  
 十号ヲ以テ盜賊高主條御制定相成候後  
 又同罪ヲ犯ス者ハ再犯ヲ以テ論裁  
 ◎四條トモ六年第百十七号盜賊高主  
 條例頒布前ナレハ加等セ入頒布後ハ加  
 等ス  
 ○八年第四十三号新河縣伺  
 凡ソ恐喝取財枉法ノ罪ハ窃盜ヨリ重シ  
 前ルニ盜賊高主條ニ窃盜ノ賍タルヲ知  
 テ受ル者ハ賍ニ計ヘ窃盜ニ準シ從ト爲  
 シテ論シ同條例ニ恐喝枉法等ノ賍タル  
 一ヲ知テ受ル者ハ坐賍ヲ以テ論スト有之  
 重罪ノ賍ヲ受ル者ハ輕シ輕罪ノ賍ヲ受  
 ル罪ハ重キハ如何ノ權衡ニ有之候哉  
 ◎恐喝取財ハ窃盜ニ一寺加フルト虽モ

者ハ從ト爲レテ論シ臨時主意テ盜ヲ  
 爲ス者ヲ以テ首ト爲ス其高主造意セ  
 入同シ行ヒテ賍ヲ分メス及ヒ同ク行  
 ハスレテ賍ヲ分メ者ハ仍ホ從ト爲シ  
 テ論ス若シ行ハス賍ヲ分メサル者ハ  
 答三十  
 其強窃盜及ヒ略賣和誘ノ賍タルヲ知  
 テ受ル者ハ各賍ニ計ヘ窃盜ニ準シ從  
 ト爲レテ論ス其盜賊ヲ知テ故サラニ  
 買フ者ハ買フ所ノ物ヲ計ヘ坐賍ヲ以  
 テ論ス知テ爲ニ寄藏スル者ハ故サラ  
 ニ買フ者ニ一等減ス知ラサル者ハ並坐  
 共謀爲盜

法ノ賍タルヲ知テ受ル者ハ坐賍  
 ヲ以テ論シ故買スル者ハ坐賍ニ一  
 等ヲ減シ寄藏スル者ハ又一等ヲ減  
 ス知ラサル者ハ坐セス  
 第百五十九條 凡盜賊タルヲ知テ  
 故買スル者再犯以上ハ一等ヲ累加  
 シ罪懲役三年ニ止ル其知テ寄藏シ  
 及ヒ牙保スル者モ亦並ニ一等ヲ累  
 加シ罪懲役二年半ニ止ル  
 同六年六月廿五日第百二十七號御  
 布告  
 盜賊高主條例  
 凡窃盜ノ高主再犯以上ニ係ル者ハ律  
 ニ照シ造意不造意同行不同行分賍

罪懲役十年ニ止ル真盜ニ非ス枉法ハ窃  
 盜ヨリ重シト虽モ受ル者盜賊ヲ受ルヨ  
 リ輕キ者ハ取與俱ニ罪アルノ賍ニ係  
 ハナリ  
 ○九年第廿二号大分縣伺 一月九日  
 典舖盜賍タルヲ知ラス牙保又ハ回曆ヲ  
 貸ス者ナシテ典賣シ盜犯未ダ縛ニ就  
 カサルニ事主被盜品ノ典舖ニ在リ知リ  
 官司ニ申セス既ニ事主ヨリ出金シ典舖  
 ノ賍物受返スノ後盜犯縛ニ就キ口供右  
 典舖ニ典賣スル旨符合スルモ盜犯資力  
 ナクハ事主ノ損失トシ典舖關係ニ及  
 ハサル哉◎盜犯資力ナクハ典舖ヨリ  
 受返ス所ノ金ヲ事主ニ還價セシム  
 ○九年第廿三号京都裁判所伺 二月七日  
 強窃盜及ヒ略賣和誘ノ賍ヲ知テ借用ス  
 ル者ハ坐賍ヲ以テ論シ華士様モ破廉耻ヲ  
 以不責シテ可然ヤ將テ知テ受ル者ト同  
 シ可論哉◎強窃盜等ノ賍ヲ知テ寄  
 藏スル者ヲ以テ論シ破廉耻甚ノ限ニ在  
 ラス 九年第廿五号新河縣伺 二月一  
 ○九年第廿三号堺縣伺 二月二十五日  
 子タル者他人ノ物品ヲ窃取スルニ父母  
 其情ヲ知テ買フ牙保或ハ賣捌ヲテシ

凡共ニ強盜ヲ爲シト謀リ其一人臨時  
 行ハスレテ餘ノ行者謀ニ違ヒ卻テ  
 窃盜ヲ爲セハ共謀ノ造意者ハ行ハス  
 ト雖モ賍ヲ分メハ窃盜ノ首ト爲レ餘  
 人ハ並ニ窃盜ノ從ト爲ス若シ造意者  
 行ハス又賍ヲ分メサルハ窃盜ノ從ト  
 爲レ餘人ノ行ハス又賍ヲ分メサ者ハ  
 並ニ答四十臨時主意レテ盜ヲ爲ナ者  
 以テ窃盜ノ首ト爲ス  
 其共ニ窃盜ヲ爲シト謀リ其一人臨時  
 行ハスレテ餘ノ行者謀ニ違ヒ卻テ  
 強盜ヲ爲セハ造意者ハ行ハスト雖モ  
 賍ヲ分メテハ窃盜ノ首ト爲ス造意者行  
 ハス又賍ヲ分メス及ヒ餘人ノ行ハス

不令賍ヲ分メ並ニ犯數ニ計ヘ窃盜  
 ト同ク罪ヲ治ス

新律綱領 ○賊盜律

改定律例 ○賊盜律





○七年第五十五号臨時裁判所申渡七月九日  
 其有共依征韓勅行シテ六平三存スルヨリ岩倉  
 倉右大臣ヲ殺害シテ勅諭ヲ動ナク欲シ同志九人  
 申合當月十五日辰時申渡テ勅諭スル程依テ  
 殊許ニ上野新井附候事  
 ○七年第五十五号山口縣伺 三月廿日  
 林木行政権使依征韓勅行シテ六平三存スルヨリ  
 倉右大臣ヲ殺害シテ勅諭ヲ動ナク欲シ同志九人  
 申合當月十五日辰時申渡テ勅諭スル程依テ  
 殊許ニ上野新井附候事  
 ○七年第五十五号山口縣伺 三月廿日  
 林木行政権使依征韓勅行シテ六平三存スルヨリ  
 倉右大臣ヲ殺害シテ勅諭ヲ動ナク欲シ同志九人  
 申合當月十五日辰時申渡テ勅諭スル程依テ  
 殊許ニ上野新井附候事

若シ因テ財ヲ得ル者ハ強盜ニ同シシ  
 首從ヲ分タス罪ヲ論ス

已ニ行フテ其人知覺奔逃シ未ク傷  
 ヲ受クハト雖モ失及墮水等奔  
 脱ニ因テ能所ニ死スル者造意者ハ  
 懲後十年從タル者ハ懲後三年若シ  
 兇悍ニ迫ラレテ當時失跌シテ死ス  
 ル者造意者ハ絞從ナル者懲後十年  
 第百六十三條 凡人ヲ謀殺セント欲  
 シテ謀ヲ舉ル時其謀ヲ人謀  
 機ヲ知覺シテ卻テ謀者ヲ殺ス者ハ  
 故殺律ニ依リ已ニ行フ時ニ臨ミ卻  
 テ殺ス者ハ罪人不拒捕而殺律ニ依  
 リ殺スノ時ニ臨ミ卻テ殺ス者ハ補  
 吏格殺律ニ依リ論スル勿レ  
 第百六十四條 凡嬰兒ヲ殺ス者ハ各

署ル約束ニテ送籍スセズ婚嫁ノ式又行  
 サシ先ツ假ニ處々ノ儘三月兄弟方へ割  
 取置シ節私不圖情欲ヲ乘シ右モトニ  
 惡暴シ姦通セント度々相迫ル處甚不筋  
 ノ事迎同人肯シセサルヲ同四月中尚  
 又相迫リ終ニ強テ承諾致サズ姦通ヲ  
 遂ケ爾後數回密會ス然ニ同人迫テハ  
 兄ノ要タル者ニ付兄存在セハ承ク雙  
 枕ノ樂ヲ偕ニ爲難シ寧ロ兄ヲ暗殺シ  
 何道ニ逃遠ント欲シ其情ハトシエニ押  
 包三同人親許へ立歸リシ折夜半兄ノ  
 寢所へ忍入り其熟睡ヲ窺ヒ胸腹へ  
 一刀突キ貫テ向所々へ切付シ腹苦痛  
 ノ聲ニテ叫ビシ故殺ニ自己ノ腕并皆  
 等三四ヶ所自ラ傷シ強盜押入兄ヲ  
 殺シ私ニ班負ハセシ体ニ仕成シ  
 刀身等取隠入際兄ハ死亡セリ  
 其後露露シ捕護セラレ候後  
 未兄ノ妻トナルヘキ處女ノ貞  
 潔ヲ守ルヲ屢々挑テ強誘シ通  
 姦ヲ遂ルノ後又兄ノ世ニ存セハ夫  
 婦トナル下獄ハサルヲ知テ暗殺ス其  
 淫惡兇毒其罪情至重ナルヲ以テ人命  
 律ニ依リ謀殺スル者 臧不 齒部茶談

謀殺本屬長官  
 凡吏卒軍民本屬ノ勅任長官ヲ謀殺ス  
 ルニ已ニ行フ者ハ流三等已ニ傷ス  
 ル者ハ斬已ニ殺ス者ハ皆梟  
 若シ奏任長官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ  
 者ハ流二等已ニ傷スル者ハ絞已ニ殺  
 ス者ハ皆斬  
 若シ判任長官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ  
 者ハ流一等已ニ傷スル者ハ絞已ニ殺  
 ス者ハ皆斬  
 其長官及比本屬ニ非ル者ハ已ニ殺  
 スト雖モ凡人謀殺ニ依リ首從ヲ分テ罪ヲ科ス

等親ニ照シ謀殺本條ニ依テ利斷  
 ス若シ穩婆囑託ヲ受テ殺ス者ハ囑  
 託スル者ト同罪  
 謀殺官吏律 原謀殺本屬長官律  
 第百六十五條 凡勅任官謀殺スルニ  
 已ニ行フ者首ハ懲後十年從ハ懲後  
 七年已ニ傷スル者首ハ斬從ニシテ  
 加切スル者ハ懲後終身加切セサル  
 者ハ懲後十年已ニ殺ス者ハ皆斬  
 若シ奏任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ  
 者首ハ懲後七年從ハ懲後五年已ニ傷  
 スル者首ハ絞從ニシテ加切スル者  
 ハ懲後終身加切セサル者ハ懲後十  
 年已ニ殺ス者ハ皆斬

新律綱領 ○人命律

改定律綱 ○人命律





○七年第四十二号山口縣伺二月廿四日  
 事官石定助供妻り儀兼子止宿メシメ  
 置江本卯助ト被通メシニ卯助ヨリ金四  
 圓十六錢ニ謀證文相添証出入ニ舟内津  
 致同人ハ直チニ出立セリ其後リも舉動  
 何トナシ怪敷存スル折柄七月十日自他  
 ヲリ版リシ時裏口ヨリ卯助逃出セシ様  
 見當憤怒ニ堪ヘス脇差取出シ朝飯  
 ナ炊ン後口ヨリ初驅同人驅出  
 害及ヒ其後始末ハ覺ヘス後ニ保保ノ者  
 ヲリ聞ニモミノ首級ヲ佛種ニ備置キ近  
 所番中茫然イムヲ名捕レシ越且卯助ハ  
 其罪言致秋穂浦ニ動キ在シ由ニ候  
 令致拒量ニ親ヲ去去取ヲ獲ニ他人  
 ノ勸解ヲ經金ヲ受私和ス後向ハ被取  
 奉動スルヲ常アラストシ遂ニ虚ヲ認メ  
 笑トシ怒氣激発シテ之ヲ殺死ス故殺ス  
 ル者ノ罪ヘシ然ニ被取ハ已ニ有罪ノ犯  
 ニ係リ其殺ス亦他故ニ由ニ非入因テ捕  
 非律罪人拒捕條罪固已ニ拘執ニ就キ及  
 比拒捕セザルニ捕吏之ヲ殺ス者ヲ以テ  
 論シ 懲役終身トシテハ輕シ論セズ  
 二件立スルハ其罪ヲ併テ上ノ罪中  
 スヨリ輕出スルニ加テ其罪然供出  
 論スルヲ以テ

若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺ス  
 ルニ已ニ行フ者ハ各關毆律内尊長故  
 殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減ス已ニ傷ス  
 ル者ハ一等ヲ減ス已ニ殺ス者ハ故殺  
 律ニ依ル  
 謀殺家長  
 凡奴卑家長ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者  
 ハ流三等已ニ傷スル者ハ斬已ニ殺ス  
 者ハ皆梟若シ雇人家長ヲ謀殺スルニ  
 已ニ行フ者ハ流一等已ニ傷スル者ハ  
 絞已ニ殺ス者ハ皆斬  
 殺死姦夫  
 凡妻妾人ト姦通スルニ本夫姦所ニ於  
 テ親ヲ姦夫姦婦ヲ獲テ即時ニ殺ス者

明治十年四月第四十号御布告  
 謀殺祖父父母律  
 若シ五等親以上ノ尊長卑幼ヲ謀殺  
 スルニ已ニ行フ者ハ各關毆律内尊  
 長故殺卑幼律ニ依リ二等ヲ減スル  
 律ヲ改メ減五等ニ從フ  
 殺死姦夫條例  
 第六十九條 凡姦夫自ラ本夫ヲ殺  
 スルハ姦婦情ヲ知ラスト雖モ絞殺  
 テ懲役終身

○七年第五十七号熊谷裁判所伺  
 飛田新八供隣家飛田四郎次留守モニテ  
 其妻トモ其他ノ者酒食セシ私私臥中  
 一同立歸リ私トセリト兩人耳ニ相成レ  
 故不圖怒憤ヲ發シ相追リテ有夫ノ身  
 ニテ從ヒ難ト云テ強テ押倒シ衆リ掛

ハ論スルコト勿レ若シ本夫止タ姦夫ヲ  
 殺ス者ハ姦婦ハ和姦律ニ依リ罪ヲ科  
 ス止タ姦婦ヲ殺ス者ハ姦夫ハ流三等  
 本夫ハ並ニ論スルコト勿レ  
 其妻妾姦ニ因リ同謀レテ本夫ヲ殺ス  
 者ハ梟姦夫ハ斬若シ姦夫自ラ本夫ヲ  
 殺ス者ハ姦婦情ヲ知ラスト雖モ絞

第七十條 凡姦婦自ラ本夫ヲ殺ス  
 者姦夫果シテ情ヲ知ラセハ止タ姦  
 罪ヲ科ス  
 第七十一條 凡姦婦過テ悔ヒ拒絶  
 ス後姦夫姦好續キ難キヲ憤リ本夫及  
 祖父母父母ヲ殺死ス者拒絶證據明  
 白ナレハ婦女ハ止タ姦罪ヲ科ス  
 第七十二條 凡姦夫姦婦姦所於テ  
 本夫撞見セラレ直ニ脱逃スルニ本夫即時  
 逐テ門外ニ至テ殺ス者ハ姦所ト同シ  
 若シ姦所及即時非スレバ姦夫ヲ殺傷  
 スル者審糾スルニ姦情確實ナレハ關  
 殺傷ニ等ヲ減ス止タ姦婦ヲ殺傷スル  
 者折傷以上關殺傷ニ等ヲ減ス姦夫

新律綱領 ○人命律

改定律例 ○人命律







ヲ以テ雜犯律式重ニ問ヒ 懲役ニ  
十日 宛 武田大藏  
○七年第百三十三号東京裁判所 二月十四日  
木道金太郎雇人川半喜助供 二月十四日  
少女等ヲ脅シテ 呼々遊歩シ本所長崎  
橋除ノ石ハ腰掛ケ發賣シ帶ヲ占メ替ル  
降謀テ同入ヲ河中へ取落セシ處其儘水  
底ニ沈シ故王家へ立報リ言葉キニ介  
其夜ハ近邊ノ軒下ニ宿シ翌日ニ至リ金  
太郎ニ行達シ其始末ヲ陳述シ但ニ不  
死骸ヲ捜索シ精ノ下流ニテ見出セリ其  
私ハ十一月 條 過失致傷人條違反ニテ人  
ヲ殺ス者法ニ依リ先切瘻疾 贖例ニ照  
シ收賈セシムヘキ處無カニシテ賈フ丁  
賈サルニ由リ改定律例第三十一條ニ  
照シ五等ヲ減シ懲役二年ヲ減テ第三  
十二條無カ收賈ノ法ニ據リ其賈金ノ半  
ヲ追給スルニ足ルヲ期トシ依リ免ス  
○七年第百四十二号石川縣 川半喜助  
過失テニ鐵刀ヲ持テ以テ人ヲ傷ス其  
傷輕キ者ハ例ニ百十四條ニ照シ懲役七  
十日ノ收賈ス人ノ義ニ存候可ニ過失傷  
收賈例圖ノ内七十日ノ木圖無條ハマ

謀同死	謀同死ニ
私和人命	私和人命一條
移地界内死屍	移地界内死屍 六條
同行知有謀害	同行知有謀害一條

十日五十錢ノ割合ヲ以テ收賈致ス可  
哉 伺ノ通  
○七年第百五十五号豊岡縣 罪案即録  
南某雇人安井幹城供長留至中 本年 某  
雇人市藏端紙ニレツビール代金一朱ト  
認レテ持參注文ニ來リト節右レツビ  
ル藥名ヲ存セサルヨリソツビールノ誤  
リナラント臆度ヲ以テ量目一女目三分  
ヲ檢發ニ入レ附典ス尤蒸ヲ戸至ヨリ大  
切ノ藥種ト承リ置レニ付尚又蒸ニ入レ  
極上水干船米ソツビールト書記ト相渡  
セレテ所醫師某ヨリ呼寄ラレ前件渡セ  
シ始末尋ラレ且レツビールトハ俗ニ云  
沸騰散ニテソツビールハ昇永利ニテ多  
量用ニル時ハ人命ニ關スル劇藥ニテ既  
ニ廣野泰三郎ナル者之ヲ沸騰散ト心得  
服用致シ忽テ大患ニ至リレ由申聞ラレ  
愕然當感仕口菅醫師へ治療ノ儀依頼レ  
且王家及ヒ親戚共へ報知ノ上泰三郎者  
護ノ者差遣レ藥用ハ勿論盡カハ抱ニ及  
ヒ候ヘ共竟ニ病死致レ候 藥ヲ買フ注  
文ノ藥名ヲ知ラサルヨリ臆度ヲ以テ其名  
ニ近似ノ藥ヲ買リ因テ死ニ致ス者人命  
律違反ニテ人ヲ殺傷スル者ハ各關條條

新律綱領	改定律例
人命律下	人命律下
戲殺傷人	
凡戲ニ因テ人ヲ殺傷スル者 關殺傷ニ二 ヲ減ス若シ高ニ乘リ危ヲ屢ニ因テ相 戲レ殺傷スル者ハ一等ヲ減ス。	
誤殺傍人	
凡關殺レテ誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ關 殺傷ニ準レテ論ス罪流三等ニ止ル。	
其謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ傍人ヲ殺ス者 ハ故殺ヲ以テ論レ傷スル者ハ仍ホ關 殺ヲ以テ論ス。	
詐稱殺人	
凡津河水深ク泥濘ナルヲ平淺ト詐稱シ及	

新律綱領 ○人命律

改定律例 ○人命律

二半シ法ニ依リ次贖ノ其家ニ給付ス  
 收贖金四十圓  
 ○八年第二十五号愛媛縣伺ノ  
 悪黙園業ヲ荒スル防禦セント所持ノ小銃ニ彈未ヲ込ニ邱内栗樹ノ下ニ伏銃ヲ案置シ右場野ハ四面高石垣ニテ彈丸他ニ逆飛ヘル患ナシト虽伏銃ヲ表セント萬事ヲ以テ目印ニ張置シニ果実ヲ拾フトテ垣ヲ越入ル者アリ誤テ其目印ノ内ニ入り伏銃機關ニ約シタル繩ニ觸レ砲發シ傷ヲ受ク但爾銃免許細札ハ受テ石口供録録ノ通傷者ハ撰ニ他人ノ邸内ニ潜入シ粟子ヲ窃取セントスルノ際其目印ニ心附クシテ伏銃ノ機關ニ約シタル繩ニ觸レ銃發シ自ラ傷ヲ取ル伏銃者ノ過失ニ非サレハ過失傷ヲ以テ論シ難ク固ヨリ山間ノ村落トハ虽モ撰ニ其邸内ニ伏銃スルヲ責メ不應為ノ輕キニ問ヒ量情輕略シテ可然哉又ハ止夕官ノ許可ヲ得バシテ獵銃ヲ取扱ヲ以テ違式ニ擬シ可然哉伺ノ通過過失傷ヲ以テ論スル限ニアラス但シ邸内ニ裝銃ヲ設ケ置ハ不應為輕ニ問ヒ贖ヲ免許細札無シテ獵銃ヲ所持スルハ銃砲取締罪則

橋梁渡船朽漏ナルヲ牢固ト詐稱シ人ヲ過渡セシメ因テ溺溺死傷ニ致ス者ハ闘殺傷ヲ以テ論ス  
 過失殺傷人  
 凡過失ニテ人ヲ殺傷ス者ハ各闘殺傷ニ準シ法ニ依リ收贖シテ其家ニ給付ス

過失殺傷人條例  
 第百八十一條 凡過失殺傷收贖ハ官吏華士族平民ヲ分タス一躰ニ本圖ニ準シ追シテ其家ニ給付ス  
 第百八十二條 凡一人二人ヲ過失殺スル者ハ例ニ照シ金八十圓ヲ收贖シテ拘シク二人ニ分給シ二人一人ヲ過失殺スル者ハ金四十圓ヲ二人ニ分追シテ一人ニ給付ス一人二人ヲ傷シ二人ヲ傷スル者モ亦此例ニ依

歐死有罪妻妾條例

二依リ品物ヲ官沒シテ五十錢ヲ科ス  
 ○八年第五十三号茨城裁判所伺  
 門政官銃砲ヲ放テ人ヲ傷スル者アル時ハ其傷ノ輕重ニ拘ラス又傷ヲ以テ論キ數果レテ然ハ過失傷モ亦過失殺傷例ニ依リ及傷スル者ヲ以テ論シ收贖金ヲ追テ傷者ニ可給或伺ノ通但シ傷輕キハ贖等ス可レ  
 ○八年第五十七号断刑課判事ヨリ卷中上  
 去ル十二月廿五号以五等減ノ法公布相成候ニ付先般過失殺傷收贖モ公債及事情ヲ酌量シ他ノ斷罪ト同ク五等減ノ法相用度旨及上申置在署之候所其減等ハ尋常犯罪ノ減等法トモ異リ候儀ニ付左ニ減等ノ法相設度抑過失殺傷收贖例圖ハ懲後三十日ヨリ懲後終身ニ至ル迄九等ニ區分有之候ニ付右九等ヲ以テ減等ノ准據トナレ假令ハ懲後終身收贖金四十圓ヨリ五等ヲ酌減セハ懲後一年收贖金十圓其一年乃至四十日等ヨリ五等ヲ減セハ既ニ減等スヘキ例圖無之故是等ハ悉皆懲後三十日ヲ減等ノ盡ル處トナレ酌減レテ懲後三十日ヨリ輕キ者ハ終テ不問置キ可然ト相考候間此段宜敷御評議有

凡妻妾夫祖父母父母ヲ毆罵スルニ因テ夫官ニ告ケテ擯ニ殺ス者杖九十祖父母父母ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス  
 若レ夫罪アル妻妾ヲ毆罵レ妻妾因テ自死スル者ハ論スルコト勿レ  
 殺奴婢  
 凡奴婢死罪ヲ犯スニ家長官ニ告ケテ擯ニ殺ス者杖七十  
 若レ罪ナキニ毆殺スル者徒三年故殺スル者ハ流ニ等  
 若レ家長雇人ヲ毆ハ折傷ニ非ルハ論スルコト勿レ折傷以上ハ凡人ニ三等ヲ減ス因テ死ニ至ル者ハ流一等故殺スル者ハ絞

改定律例  
 第百八十三條 凡妻妾夫ノ祖父母父母ヲ毆罵スルニ因テ夫官ニ告ケテ擯ニ殺ス者杖九十改テ懲後一年其傷スルニ因テ擯ニ殺ス者懲後九十日  
 改正殺雇人律 原殺奴婢律  
 第百八十四條 凡雇人死罪ヲ犯ス家長官ニ告ケテ擯ニ殺ス者懲後八十日  
 第百八十五條 凡家長雇人ヲ毆テ死ニ至ル者ハ流一等改テ懲後十年

將屍圖賴條例

新律綱領 ○人命律

改定律例 ○人命律

之度同之通

○八年第九十八号和歌山縣同十一月十七日  
 爰ニ離異歸宗ノ婦ヲ繼戀シ再婚ヲ思フ  
 婦アリ感鳴ニ控シ拘引セリ欲シ日耐解ニ  
 乘シ其家ニ至リ捉ヌ婦身ニ迫ル婦人  
 馳來リ之ヲ勸解ヲ為入時ニ又勸解人ニ  
 觸レ傷ヲ成入斯ノ如キ犯アル片ハ誤殺  
 傷傍人律ニ依ラシ平將ヲ過失殺傷人律  
 ニ依ラシ乎誤過ノ二字美断收賤ノ兩岐ニ  
 分ル此兩端ニ於テ聊カ判拆洞解シ得入  
 他日審案ノ為ノ豫ノ相伺候過失傷ヲ  
 以テ論ス

○七年第十區号長野縣同一月廿四日  
 宿願立所  
 人足差起土屋佐平供東京鎮基ヨリ弟ニ  
 分營ヘノ御用狀紛失候ヲ詮議可致ト繼  
 立所小遣土屋甚平參意ニテ右持夫人足  
 同村寄留人玄吾并ニ源吾ヲ禁絶ニテ縛  
 シ甚平俱々竹ヲ以テ打擲訊問及候所  
 玄吾儀右御用狀ハ指幣入ト見受候ヨリ  
 竊ニ破封致候處書帖ノミニ付最前致傷  
 へ取棄或ハ水中へ投シ候由申立其邊所  
 々搜索シテ立越候へ共不相知夜ヲ徹シ  
 立取リ候折柄玄吾聊恐懼ノ色ナク焚火  
 ノ傍ニ罷在候ヨリ心患ノ存且右体賤味

凡祖父母、父母、子孫ヲ殺シ及ヒ家長  
 又婢ヲ殺シテ人ニ圖頼スル者ハ各  
 本罪ニ一等ヲ加フ。

若シ子孫及ヒ奴婢已ニ死スル祖父母  
 父母及ヒ家長ノ屍ヲ將テ人ニ圖頼ス  
 ル者ハ徒三年、二等親ノ尊長ノ屍將テ  
 スル者ハ徒二年、三等親以下ノ尊長ハ  
 各一等ヲ遞減ス。

若シ尊長已ニ死スル卑幼及ヒ他人ノ  
 屍ヲ將テ人ニ圖頼スル者ハ杖八十。

其官ニ告ル者ハ誣告律ニ依テ罪ヲ論  
 ス因テ財物ヲ詐リ取ル者ハ贓ニ計ヘ  
 竊盜ニ準シ重キニ從テ之ヲ科ス。

方銃殺傷人

第百八十六條 凡雇人己ニ死スル家  
 長ノ屍ヲ將テ人ニ圖頼スル者ハ懲  
 役百日。

改正月銃殺傷人律

第百八十七條 凡故ナク弓箭銃砲ヲ

ノ申立故今一應可相糾一已ノ思慮ヲ  
 以テ再ト同人ヲ縛シ梁木ヘ釣上激怒ノ  
 餘リ息杖竹ニテ尚又打擲致候處終ニ死  
 亡ニ及候命律杖奴婢條家長雇人ヲ  
 歐テ死ニ至ルヲ以テ論シ 懲役五年  
 土屋佐平ヲ以テ例同律ニ依ル

○九年第四十九号熊本縣同四月廿六日  
 例第百八十五條家長雇人ヲ歐テ死ニ  
 至ル者流一等致テ懲役十年トアリ其家  
 長ニアラザル家長ノ尊屬ヲ言ハサルハ  
 仍ホ聞テ以テ論スルノ律旨ニ可有之哉

○何ノ通

○七年第三十四号山梨裁判所同二月廿四日  
 湯船小兵衛儀罪案ノ通車馬殺傷人條  
 例ニ依リ懲役三年ニ處シ仍ホ埋葬金三  
 十五圓ヲ追シテ死者ノ家ニ給付シ外ニ  
 銃砲取締規則ニ違ヒ竊ニ銃砲所持スル  
 ノ過料金五十錢及ヒ鳥獸捕規則ヲ犯シ  
 竊ニ捕業スルノ罰金六圓ハ別段可申付  
 哉○改定律例第百九十条深山曠野猛  
 獸ノ往來スル處ニ於テ高弓ヲ安置シテ  
 望撃ニ及ヒ抹眉索ヲ立テ人ヲ死ニ致  
 ス者ハ 懲役三年銃砲規則ニ違ヒ竊ニ  
 銃砲ヲ所持スルノ過料 金五拾錢鳥

凡故ナク弓箭銃砲ヲ放チ及ヒ劍刃ヲ  
 挺ク者ハ人ヲ傷セスト雖モ杖六十傷  
 スル者ハ凡闘傷ヲ以テ論ス因テ死ニ  
 致ス者ハ絞士族卒ハ破廉耻甚者ヲ以  
 テ論ス。

車馬殺傷人

凡故ナク街市ニ車馬ヲ馳驅シ因テ人  
 ヲ傷スル者ハ凡闘傷ニ一等ヲ減ス死  
 ニ致ス者ハ流三等。

放チ及ヒ劍刃ヲ挺ク者ハ人ヲ傷セ  
 スト雖モ杖六十 改正懲役三十日 傷  
 スル者ハ凡闘毆傷ヲ以テ論ス因テ  
 死ニ致ス者ハ絞改テ懲役終身。

第百八十八條 凡曠野無人ノ地ニ於  
 テ故チシ弓箭銃ヲ放チ因テ人ヲ殺傷  
 スル者ハ過失殺傷ヲ以テ論ス。

第百八十九條 凡弓箭銃ヲ放チ及ヒ劍  
 刃ヲ挺ク者華士族ハ破廉耻甚ヲ以  
 テ論スル律ヲ改メ一躰ニ閏刑ニ處ス

車馬殺傷人條例

第百九十條 凡深山曠野猛獸ノ往來ス  
 ル處ニ於テ高弓ヲ穿作シ及ヒ高弓ヲ安  
 置シテ望撃ニ及ヒ抹眉索ヲ立テ人ヲ死  
 ニ致ス者ハ流三等。

新律綱領 ○人命律

改定律例 ○人命律

獸獵罪則ヲ犯シて一獵業スル罰金倍具  
 ヲ酌量シ 金五円以上十圓以下ニ科  
 ○七年第六十号白川縣伺 九月五日  
 車下通客ヲ車ニ乗セ公務等ノ故ナク街  
 市ヲ馳驟シ人ヲ殺傷スレハ人命律車馬  
 殺傷人條ニ照レ凡間傷ニ一等ヲ減シ可  
 科ノ處其殺傷セラルル人若レ初犯則及  
 等外史運卒戸長等ニ係レハ各本罪ニ減  
 一等過誤ト雖モ當初故ナク馳驟スルヲ  
 以テ實斷ス可哉然ト雖モ犯ス時其勅奉  
 判及等外運卒戸長タルヲ知サレハ名例  
 律本條別有罪名條其罪云々凡人ニ依テ  
 論スト云ニ依リ凡人間殺傷ニ一等ヲ減  
 レ科斷可然哉○重傷殺傷人律第一項ニ  
 依リ勅奉判以下凡人ト同處ス  
 ○七年第六十号發後縣伺 二月十七日  
 親自在寺覺信供養月久吉演說セラル  
 者病体孤舟ノ様子ニテ親類同道レテ祈禱  
 フ類ニレニ付荒々敷可責レ赤裸ニナ  
 レ度上ニテ枯松葉ヲ燒キ親類ノ者ニ手  
 足ヲ持セ左腹ヲ薫フルニ轉顔逃出サン  
 トスルヲ再度前同様ニ仕為レ四体ニ泥  
 付ケハ水ヲ灌キ終ニ病人困頓モ故通

若レ馬驚逸或ハ公務ノ急速ニ因リ  
 馳驟シテ人ヲ殺傷スル者ハ過失ヲ以  
 テ論シ法ニ依リ收賅シテ其家ニ給付  
 ス

四十日以下人ヲ傷スル者ハ關毆傷ニ四  
 等ヲ減ス減シテ本罪ヨリ輕キ者本罪  
 ニ依テ論シ死ニ致ス者懲役三年仍ホ  
 埋葬金二十五圓ヲ追ヒテ死者家ニ給  
 付ス若レ深山曠野ニ非スレテ人ヲ殺傷  
 スル者車馬殺傷人律ニ依ル  
 第九十一條 凡竈弓人ヲ殺ス者例  
 ニ依リ罪ヲ科スト雖モ貧困ニシテ  
 埋葬金ヲ追スルヲ能ハサレハ其雇  
 工錢ノ全數ヲ領置シ食費ヲ除キ餘  
 ル所ノ雇錢金二十五圓ニ滿レハ死  
 者ノ家ニ給レ仍ホ役限ハ本法ヲ盡  
 ス

夜堂ニ入置シ所廿一日朝ニ至テ死去入  
 ○談已淺七カ狂狀ヲ奏スルヲ見テ狐  
 狸ノ憑ル者トシ之ヲ驅逐ノ為メ加持祈  
 禱ニ病者ヲ薫灼シテ死ニ至ラシムルト  
 臣モ其原由最初ノ病症樂劑ニ係ルヤ否  
 ヲ審ニセズ且其病者ヲ供養スルモ一途  
 苦惱ヲ除クノ真情ニ出テ毫モ財物ヲ貪  
 ルノ情ナク專ラ治療ニ注意シテ死ニ致  
 スモノ庸医ノ滅穴樂劑ヲ誤リ死ニ致ス  
 始ト相似シルヲ以テ人命律庸医謀殺  
 ヲ用ヒ誤テ本方ニ依ラス因テ死ニ致ス  
 ト云ニ比照シ過失殺ヲ以テ論シ法ニ依  
 リ收賅シテ其家ニ給付シ其幣書宗法  
 ニ由テ以テ 毒職收賅金世五圓宛信  
 所犯法定律前ニ在テ以テ酌量依新頒  
 律條ニ照シ收賅金數ハ旧法ヲ用ユ  
 ○七年第四十六号鹿兒島縣伺 二月八日  
 二人各強姦スルアリ一人ハ席上ニテ偶  
 色情ヲ發服セサル板女ヲ推シテ姦ス  
 一人ハ故ナラ道路通行ノ板女ヲ無理  
 ニ邊鄙ノ所ヘ抱ヘ去リ手足ヲ竹木ニシ  
 ハリ付姦スルアリ女ハ身賣サレタルヲ  
 耻テ其所ヲ去テ淵ニ投シ若ハ溢レテ死  
 スルアラハ死ハ犯者ノ關スルナシト雖  
 モ其原由ヲ問フ片ハ其責ヲ免レサルカ

死ニ致ス者ハ過失殺ヲ以テ論シ法ニ  
 依リ收賅シテ其家ニ給付シ医ヲ行フ  
 可ヲ許サス  
 若シ故サラニ本方ニ違ヒ疾病ヲ詐療  
 シテ財物ヲ取ル者ハ賊ニ計ヘ窃盜ニ  
 準シテ論ス因テ死ニ致シ及ヒ事ニ因  
 テ故サラニ藥ヲ用ヒ人ヲ殺ス者ハ斬  
 威逼致死  
 凡戸婚田宅錢債等ノ事ニ因テ人ヲ威  
 逼シテ自死ニ致ス者ハ杖一百若シ官  
 吏公使人等公務ニ因ルニ非ラスシテ  
 平民ヲ威逼シ因テ自死ニ致ス者モ罪  
 同並ニ埋葬金二十五兩ヲ追給ス  
 若シ姦ヲ行ヒ盜ヲ為スニ因テ人ヲ威逼シ

改定律例 ○人命律

新律綱領 ○人命律

改定律例 ○人命律



如改正強盜律二益三因テ殺スル者ハ成  
否ヲ論セス絞トアリ二人各犯ノ如キハ  
強盜ニ輕重ノ衡ヲ別タス一体ニ改正律  
例第二百六十條ニ依リ論ス可哉  
毒已ニ成リ本婦羞忿自盡スル者奸夫  
ハ威逼致死律ヲ行ヒ人ヲ威逼レテ  
自死ニ致ス者ヲ以テ論ス可レ  
○七年第二十二号若松縣例 二月二日  
忽然瘋癲ヲ發シ人ヲ傷シ後數月ヲ經  
テ痊愈スル者アリ過失條例例四ニ照  
シ杖贖申付放免可然哉  
○七年第五十四号豊岡縣例 二月五日  
明治三年元豐岡藩ニ於テ別紙口  
書寫之ノ遺終身禁錮申付置候所  
既ニ五年ノ月日ヲ積追々成長及  
ヒ先非ノ何意ニ出ル實ニ夢中ノ  
心地ト疑ヒ日夜相悔ミ悲歎罷在  
候様子畢竟前日ハ母ヲ慕フノ切  
ナルヨリ心氣取上セ如此始末ニ  
モ立至リ候へ共瘞癒ノ姿モ相頭  
レ候條例百九十五條ノ權衡ニ準  
シ懲役五年ニ改正候様相伺候也  
○律例第百九十五條ニ瘋癲人ハ  
ヲ殺ス者ハ云々懲役五年ニ改正ス

自死ニ致ス者ハ姦ノ成否ヲ論セス  
財ノ得否ヲ問ハス並ニ斬  
瘋癲殺人  
凡瘋癲人ハヲ殺ス者ハ終身鎖錮仍ホ埋  
葬金二十五圓ヲ追取レ死者ノ家ニ給  
付ス若レ二命以上ヲ連殺スル者ハ絞  
親屬看守嚴ナラスレテ他人ヲ殺死スルニ致  
ス者ハ杖九十  
若レ瘋癲ヲ假リ人ヲ殺傷スル者ハ謀故  
殺傷ニ依テ之ヲ科ス

瘋癲殺人條例  
第百九十二條 凡瘋癲人ハヲ殺レ埋葬  
金二十五圓ヲ追スル者改正テ過失殺  
收賂例ニ照シ四十圓ヲ追レテ死者  
ノ家ニ給付ス其人ヲ傷スル者ハ並  
ニ過失傷收賂例ニ照シ追レテ傷者  
ニ給レ警備ノ資ト為ス  
第百九十三條 凡瘋癲人二命以上ヲ  
連殺スル者ハ絞改テ鎖錮終身  
第百九十四條 凡瘋癲人祖父父母  
ヲ殺ス者鎖錮終身  
第百九十五條 凡瘋癲人ハヲ殺ス者ハ鎖

ト在ルモ本犯ノ如キ瘋癲ニテ放火スル  
者ハ律ニ明文無シ因ニ果レテ淫慾スレ  
ハ親屬隣佑ノ保証ヲ取リ禁錮ヲ全免ス  
○七年第七十七号新治裁判所例 四月廿五日  
瘋癲人父ヲ傷スル者鎖錮申付置候所  
隣佑ヨリ全愈ノ段届出ルトキ監禁破棄  
ナル者直チニ鎖錮差免可然哉  
○七年第百十六号置賜縣例 六月廿日  
慶長右工門停元澤五郎次供 本年他行レ  
醉中ニテ深更ニ及ヒ村内南松原村ヲ通  
行ノ砌風ナギニ燈火消滅シ頻リニ物淋  
レク相成兼テ聞及フ野狐ノ声為ト忽チ  
心氣取乱レ道ノ前後モ不相成ニ付暫ク  
烟道ニ休息ノ折リ後トヨリ提燈ヲ携ヒ  
來ル者アリ同行セント覺悟ラレ瓶ヲ見  
レハ同村一類梅澤清右工門ノ様アレハ  
渠レ深更ニ通行ノ苦ナレ必狐狸ノ變化  
ト心付レ内同人又同行セント申レ且自  
少ノ両手ヲ引立レ故愈々狐ノ化身ト存  
シ直チニ組付短刀ニテ切付突立打捲ン  
稍安心レテ立竝ル途中夜明ニ至リ帽子  
短刀共取落セシテ心付引返レ右場野邊  
参リテ野狐ト存レ殺シハ全ク清右工門  
ナレハ驚入父前段ノ始末相話シ

謀同死  
凡姦夫姦婦同死ヲ摘獄スルニ姦婦已ニ  
死レ姦夫未死セズ姦夫已ニ死レ姦婦未  
死セザル者ハ並ニ流三等  
若レ同ク謀リ藥ヲ用ヒテ墮胎スルニ姦婦

錮終身ニ處スト雖モ若レ果レテ淫  
愈スレハ親屬隣佑ノ保証ヲ取リ懲  
後五年ニ改正レ限滿テ放還ス  
第百九十六條 凡瘋癲人自殺ヲ致スニ  
看守人失察スル者懲役二十日若レ人  
傷スルニ至ラレムル者懲役四十日  
第百九十七條 凡瘋癲人ハヲ殺ス者孤  
獨貧困ニレテ親屬ノ保管スル者ナケレハ  
鎖錮獄ニ換レ埋葬金ヲ追ヒス  
謀同死條例  
第百九十八條 凡姦夫姦婦同ク謀リ  
墮胎スルニ姦婦身死スル者姦夫ハ  
流三等改正懲役三年  
第百九十九條 凡姦夫姦婦同死謀リ

新律綱領

○人命律

改定律例

○人命律

自告決心セテ所父ヨリ差止ラレ翌日  
自首仕候ニ依テ深夜獨行シ忽然燈火ノ  
消ルヲ見テ狐狸ノ著ト疑ヒ恐懼スルノ  
際又知ル人來テ同行ヲ欲ムルヲ見愈々  
狐狸ノ我ヲ誑惑スル誤認シ匪法ノ途ヲ  
之ヲ制シテ死ニ致ス其罪惡心氣錯亂ニ  
臨前ニテ死ニ致スルヲ以テ改定律例第百  
九十五條瘋癲人ノ殺ス者ハ鎖鋼終身  
ニ處スト雖モ若シ果シテ空愈スレハ云  
々トアルニ擬シ 懲役五年 五郎次仍  
埋葬金四十圓トシ  
行死者ノ限ニ給ヤス  
○七五第百八十一号 三浦縣 同 同  
巖山口嘉次郎兵衛ハ在付ケ候儀ニ依テ  
律相伺候所瘋癲人母ヲ傷ムル者共家ニ  
鎖鋼ニシム可シトノ御旨令旨ハ致ス者  
同ノ終身ニ候儀ニ依テ改定律例第百  
九十五條若シ果シテ空愈スレハ如何  
計可成哉○空愈スレハ現傷除ケ保  
ヲ以テ放免ス可シ  
○七五第百八十九号 山口縣 同 同  
懲役一年以上ノ犯人供状結審シ被在ス  
ル者父兄親戚等ニ保管鎖鋼セシム年用  
ヲ經テ全愈セハ若シ全愈ノ期ヲ待テ可  
是決裁○同ノ通

身死スル者。姦夫ハ。流三等。  
私和人命  
凡祖父母。父母。及ヒ夫。若クハ家長。殺サ  
シ。子孫。妻妾。及ヒ奴婢。私和スル者ハ。徒三  
年。二等親ノ尊長人ニ殺シ私和スル者ハ。  
徒二年。三等親以下。各一等ヲ遞減入。  
其卑幼。人殺サレテ。尊長私和スル者ハ。各  
等親ニ依テ。卑幼ノ罪ニ等ヲ減入。若シ妻  
妾。子孫。及ヒ子孫ノ婦。叔姪。人殺シ。祖父  
母。父母。夫家長。私和スル者。杖八十。財ヲ受  
ル者ハ。竊盜ニ計ノ竊盜ニ準シ。重キニ從  
テ之ヲ科ス。人殺シ。人命ヲ私和  
スル者ハ。杖六十。財ヲ受ル者ハ。竊盜ニ計ノ枉

傷人。雖モ人ニ阻救セラレ。未タ死セサル  
者ハ。鬪毆傷ニ一等ヲ減入。  
私和人命條例  
第二百條 凡家長。人ニ殺サレ。雇以私  
和スル者ハ。懲役百日。若シ雇人。人ニ  
殺サレ。家長私和スル者ハ。懲役七十日。

○八年第四号 奈良縣 同 同  
瘋癲人子孫ヲ殺ス者ハ。限期ナク其家ニ  
鎖鋼シ。若シ果シテ空愈スレハ。親屬隣佑  
ノ證ヲ取リ可放免哉○同ノ通  
○八年第七号 埼玉縣 同 同  
今茲ニ瘋癲人録ヲ以テ人ヲ傷ムル者  
ノ例百九十二條及過失殺傷人律ニ照依  
シ其罪ヲ門毆傷ニ准擬スルニ第百二十  
四條懲役七十日ニ決ル依テ之ヲ收贖セ  
シムルノ法例圖中其項開載無之ト雖モ  
仍ホ一十ヨニ金五十錢ノ數ヲ以テ計開  
シ收贖セシメ傷者ニ給シ可然哉○同ノ通  
ハ公儀ヲ規規ハ。○本條但書共同ノ  
レ。領同セシメ。可然哉○同ノ通  
○拾令條第六号 京都府 同 同  
七五第百八号 山口縣 同 同  
八十九号 山口縣 同 同  
供状結審シ被在セル者云々同ノ通ト若  
然レハ瘋癲病ニ係ル者ハ。已決囚モ。其  
病氣快復迄ノ間ハ。現威ニ保責シ果シテ  
全愈スルヲ待テ償役セシムヘキヤ。待マ  
其餘症ヲ發シ。醫治ニ至ルモノト同ノ通  
ニ餘罪ヲ收贖シ其身ハ。親戚ニ下附シ。嚴  
ニ鎖鋼セシメ置キ可然哉○後半同ノ通  
○第一條ノ者若シ餘罪ヲ收贖シ不苦儀ニ

法ニ準シ。重キニ從テ之ヲ科ス。  
移地界内死屍  
凡地界内ニ死屍アルヲ。埋長地主。鄰佑  
人。官司ニ申報セシ。轉シ他所ニ移シ。及  
ヒ埋藏スル者ハ。杖七十。水中ニ棄ル者  
ハ。杖一百。因テ衣服ヲ盜取スル者ハ。賊  
ニ計ノ竊盜ニ準シ。重キニ從テ論ス。罪  
流三等ニ止ル。

移地界内死屍條例  
第二百一條 凡墳塚ヲ發掘シ。官標  
ヲ現ハス者ハ。懲役一年。已ニ開テ。屍  
ヲ見ハス者ハ。懲役三年。屍ヲ毀毀ス  
ル者ハ。懲役五年。  
第二百二條 凡地界内ニ死屍アルヲ。輒  
水中ニ棄ルト雖モ。未タ屍ヲ失ハサル  
者。律ニ照シテ。等ヲ減シ。懲役九十日。  
第二百三條 凡子孫ノ死屍ヲ棄ル者ハ。  
懲役七十日。  
第二百四條 凡變死ニ係ル屍。官檢視  
ヲ經ルニ非レハ。私擅ニ埋葬スルヲ。聽サ  
ス。違フ者ハ。懲役四十日。

新律綱領 ○人命律

改定律例 ○人命律



トナサハルヲ得ヌ門政傷ニ於ルヤ手ヲ  
下タスニ先後ハアルモ執レモ事伴起  
出ル者ニアルハ臨時及器ヲ用ヒ及傷  
ルモ傷ノ輕キ者ハ必ス其及器ノ區別  
ヲ論ヒス止ク其傷ノ輕重ヲ至吉ト論  
セン乎即テ律例ノ錄ノ茶刀等ハ綱領ニ  
所謂刃傷ノ輕キ者ノ微トセン若シ  
然ルニ於テハ門政及傷ヲ論スル後令腰  
刀鑊鎗等ヲ猝然用ヒテ傷ヲ成スモ  
傷輕些ニ係ル者ハ傷ノ輕些ナルヲ以テ  
律例錄ノ茶刀等ノ條例ニ問擬レ  
可然哉錄ノ茶刀柴斧等ヲ以テスル  
モ刃傷ナラサルヲ得サルヲ律例ニ  
特リ錄ノ茶刀等尋常器用ノ名目  
ヲ舉ル此ニ於テ兵器ノ及傷輕キ者ヲ  
是ニ比擬センコトノ定意ニ迷フコト腰刀  
鎗槍等ノ器ヲ用ヒテ人ヲ傷スル  
者ハ傷ノ輕重ヲ論マヌ懲後二年  
ニ處ス

妻妾與夫親屬相毆	
父祖被毆	

妻妾與夫親屬相毆一條	
父祖被毆二條	

スルハ有係以上ニアラザレバ減等セ  
ナルニ似タリ長シテ然ラハ今二人アリ  
テ門ニ因リ搦獲等ヲ以テ互ニ相毆テ後  
ニ手ヲ下シ理直ナル者理由アル者ヲ毆  
傷スレハ減等シテ懲後二十日ニ處シ傷  
セハレハ減等セハレテ懲後三十日ニ處  
スヘク相見權衛ニ疑感ヲ生レ候後ニ手  
ヲ下タレテ理直ナレハ有係無傷ヲ以テ  
減等シ可然哉後ニ手ヲ下レテ毆傷  
スルモ理直ナル者ハ本罪ニ減等セ  
レハ毆傷セザレハ勿論減等ス

○細民等間ニ因リ甲巳レノ理直ナルヲ  
以テ乙ノ理曲ヲ毆ソニ乙念怒ニ堪ヘス  
倉卒ノ際自反スルニ違マアラス毆込出  
跡ニ及フノ後官甲ヲ捕縛シ糾問中乙自  
分ノ非理ヲ省察シ捕出訴ヲ願下ケ自ラ  
恕センコトヲ請フ者アレハ成傷以下ハ其  
情願ヲ聽シ共儘放免シ可然哉已ニ獲  
覺シ糾問中ノ者ハ放免セス

○八年第九号山形縣伺 三月十日  
○長崎縣裁判所伺 毆傷成テ至モ糾問  
係アリ私和ヲ聽テ御指令相成候所右車坊  
ノ尊長毆モ同檢得可然哉伺通

○八年第五十号滋賀縣伺 四月

**新律綱領**  
**毆毆律**  
 凡闘毆手足以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サレ  
 者ハ笞二十。傷成レ及ヒ瓦石拋擲等ヲ以  
 テ人ヲ毆テ傷ヲ成サレ者ハ笞三十。傷ヲ  
 成者ハ笞四十。血耳目中ヨリ出テ。及ヒ内  
 損レテ吐血スル者ハ杖八十。人ノ一指一齒  
 ヲ折リ。一目ヲ眇シ。ニレ。耳鼻ヲ抉毀シ。若クハ  
 骨ヲ破リ。及ヒ湯火ヲ以テ人ヲ傷スル者ハ  
 杖百。穢物ヲ以テ口鼻内ニ灌入スル者モ  
 罪亦同。二指二齒以上折リ。及ヒ髮ヲ髡ス  
 ル者ハ徒一年。人ノ筋ヲ折リ。兩目ヲ眇シ。レ  
 及ヒ刃傷スル者ハ徒二年。

**改定律例**  
**毆毆律**  
**闘毆條例**  
 第二百八條 凡闘毆成傷ト稱スル  
 ハ。毆ツ所ノ皮膚色青赤ニレテ。腫起  
 スル者ヲ謂フ。刀ヲ持テ人ヲ傷入。雖モ  
 其背柄ヲ以テ毆テ。刃ヲ用ヒ。サレハ。  
 仍ホ槌棒ト同ク論ス

第二百九條 凡闘毆髮方寸以上ヲ抜  
 者ハ。懲後四十日。若シ時皆絶セシムル  
 者ハ。懲後八十日。

第二百十條 凡二人共今毆テ各一目  
 ヲ眇シ。首ニ至ラシムルニ先キニ毆ツ者  
 ハ。癡疾律ニ依リ。懲後三年。後毆者ハ。

新律綱領 ○ 毆毆律

改定律例 ○ 毆毆律



ヲ以テ甲ヲ毆打スルノ類情法ヲ酌量シ  
減等スルニ止マリ候哉又ハ其情狀ニ因  
リ賈ヲ聽シ候儀モ可有之哉(註)吐罵ヲ受  
ルト雖モ性命身体ニ関シ時機緊急ニ  
可ラサルノ勢アルニ非ス酌量輕減スト  
雖モ賈ヲ聽ス限ニテラス

○指令録第五号京裁判所同  
飼主其犬ヲ啖シ児童ニ傷ヲ負ハセシ者  
律例ニ處分ノ明文ナシ清律蓋垂咬踢人  
條江若故放令殺傷人者毆殺傷一尋  
毆殺傷律例云々ト有之右飼主者凡毆傷  
二一尋ヲ減シ處分シ若シ其親屬ニ係ル  
者ハ是亦各尋親ヲ毆傷スル律ニ依リ處  
分シ如何可有之哉(註)關傷ニ因テ酌減ス  
可シ

○指令録第五号京裁判所同  
爰ニ人ト爭論ノ末怒ヲ發シ其人ノ襟ヲ  
捕ヘ壓倒セント欲シ他人ノ阻當ニ依リ  
テ止メ壓セシノミニテ止ル者アリ右ハ  
已ニ憤爭スト雖未タ毆打セサルヲ以テ  
門毆ニ依テ難論欲將其毆ツ者ヲ以テ論  
シ懲後二十日ヲ可科哉(註)毆打ニ至ラス  
爭鬪ニ止ル者ハ地方遠式例ニ依ルベシ

○八年第八号京裁判所同 第一二条

ツ者ハ徒二年傷スル者ハ徒三年折傷  
以上ハ流ニ等癢疾ハ絞其長官ニ非ル奏  
任官ヲ毆ツ者ハ徒一年傷スル者ハ徒二  
年折傷以上ハ流ニ等癢疾ハ流ニ等篤疾ハ  
絞

若シ判任長官ヲ毆ツ者ハ杖九十傷スル  
者ハ徒一年折傷以上ハ徒三年癢疾ハ流  
等篤疾ハ絞死ニ至ル者ハ並ニ斬

其本屬ニ非ル者ハ各二等ヲ減ス減シ  
テ罪凡關ヨリ輕ク若シハ等シキ者ハ  
凡關ニ一等ヲ加ヘテ死ニ入ル

若シ判任官ヲ毆ツ者ハ懲後九十日  
傷スル者ハ懲後一年折傷以上ハ懲  
後三年癢疾ハ懲後五年篤疾ハ絞死  
ニ至ル者ハ並ニ斬

毆官吏條例  
第二百十七條 凡判任官勅任官ヲ毆ツ  
者ハ懲後九十日傷スル者ハ懲後一  
年半折傷以上ハ懲後五年癢疾ハ絞

本籍屋敷ノ判任官ヲ毆罵スル者ハ奏任  
官ヲ毆罵スル律ニ依リ可然哉(註)判任官  
ヲ毆罵スル律ニ依テ處分ス

○同上ヲ華族ニ非サル判任官ノ毆罵ス  
ルハ奏任官ヲ毆罵スルヲ以テ論セン  
平少シシ疑義ヲ生ス(註)判任官ヲ毆罵ス  
ル律ニ依リ處分ス

○八年第十五号大阪裁判所同 第一二条  
凡文武百工技藝ノ人授業師ヲ毆ツ者ハ  
已ニ本律ニ明文アリト雖モ若シ授業師  
ノ徒弟ヲ罵詈雑傷或ハ徒弟ノ財物ヲ  
盜ム者等ハ如何可處哉(註)授業師其子  
子ヲ非理ニ毆殺傷スル者ハ凡門毆ヲ以  
テ論シ財物ヲ盜ムハ弟子其師ノ財物ヲ  
盜ムト罪同シ罵ル者ハ論スル勿レ但  
弟子教令ニ違犯スルニ依リ毆罵シテ殺  
傷スル者ハ口書ヲ以テ何出ツベシ

○八年第五号大分縣同 第六条  
戸籍届未齊雇人又ハ職業ノ為メ無稅ニ  
テ使用スル者毆雇主又ハ罵雇主并ハ右  
ノ推衛ニヨリ届不届ヲ論セ又家長ヲ  
毆罵スル律ニ科シ雇主ハ悞悞罰則及ヒ  
違式ニ處處仕可然哉(註)同ノ通

○九年第九号滋賀縣同 一月廿四日  
例第九十七條凡官吏華族ノ家ニ給侍

拒毆官司差人  
凡官司人ヲ所屬ニ差遣シ錢糧ヲ追徴  
シ公事ニ勾攝スルニ抗拒シテ服セザ  
ル者ハ杖六十毆ツ者ハ杖八十内損以  
上ハ各凡關傷ニ二等ヲ加ヘ罪流三等  
ニ止ル死ニ至ル者ハ斬

毆受業師  
凡官司人ノ所屬ニ差遣シ錢糧ヲ追徴  
シ公事ニ勾攝スルニ抗拒シテ服セザ  
ル者ハ杖六十毆ツ者ハ杖八十内損以  
上ハ各凡關傷ニ二等ヲ加ヘ罪流三等  
ニ止ル死ニ至ル者ハ斬

若シ奏任官ヲ毆ツ者ハ懲後七十日  
傷スル者ハ懲後百日折傷以上ハ懲  
後三年癢疾ハ懲後十年篤疾ハ絞死  
ニ至ル者ハ並ニ斬

第二百十八條 凡奏任官勅任官ヲ毆  
ツ者ハ判任官奏任官ヲ毆ツト罪同  
シ其勅任官奏任官ヲ毆ツ及ヒ奏任  
官判任官ヲ毆ツ者ハ並ニ凡關毆ヲ  
以テ論ス

毆受業師條例

新律綱領 ○關毆律

改定律例 ○關毆律



妻妾夫ニ毆打セラレ告訴スル者折傷以上ニアラサレハ仍ホ干名犯義ヲ以テ科シ夫ハ罪ヲ論セス其折傷以上ノ者夫ハ毆傷妻妾條ニ依リ罪ヲ科シ妻妾ハ干名犯義ノ限ニアラサル哉(四)夫妻妾ヲ毆テ折傷以下罪ヲ論セサレハ妻妾告訴ストモモ干名犯義ノ罪ヲ科セス後毆折傷以上ハ伺ノ通

○八年第七号山形縣例 九条内 第八  
五等親圖解目從父兄弟ハ兄弟ノ子相呼テ從父ト為ス長者ヲ兄ト曰ヒ少者ヲ弟ト曰フトアルハ假令ハ此ノ從父弟ヨリ從父兄ヲ毆ツハ三等ノ尊長ヲ毆ツ律ニ依リ懲後一年又ハ同等ノ親ナルヲ以テ毆ヲ以テ論哉(三)等親ノ尊長ヲ毆ツ律ニ依ル

○八年第五十三号京都裁判所例 第四  
新律毆三等親以下尊長條三五等親ノ尊長ヲ毆ツノ明文ナシ然レニ法律條大功以下尊長條ニ毆外姻總麻凡杖一百トアルニ依リ右ヲ援引シ其五等親ノ尊長ヲ毆ツハ四等親ヲ打ツ者ト同シシ懲後一百日ヲ科シ可然哉(四)夫妻ノ父母ヲ毆ツ者ハ毆傷妻妾律ノ末項ニ明文アリ

若シ妻夫及ヒ正妻ヲ毆ツ者ハ妻夫ヲ毆ツ罪ニ各一等ヲ加ヘテ死ニ入ルルニ至ル者ハ斬故殺スル者ハ梟

毆傷妻妾  
凡夫妻ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル勿レ折傷以上凡人ニ二等ヲ減ス妻ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス死ニ至ル者絞故殺スル者モ罪同妻ヲ毆ツ折傷以上上妻ヲ毆傷スルニ二等ヲ減ス死ニ至ル者ハ流一等若シ妻妾ヲ毆傷スルハ夫妻ヲ毆傷スルト罪同妻ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス過失殺スル者ハ各論スル勿レ

若シ夫妻ノ父母ヲ毆ツ者ハ杖九十折傷以上ハ各凡鬪傷ニ一等ヲ加ヘ篤疾

毆傷妻妾條例  
第二百二十三條 凡夫妻ヲ毆テ死ニ至ル者ハ絞改テ懲後終身其故殺スル者ハ絞若シ夫妻ノ父母ヲ毆テ篤疾及ヒ死ニ至ル者ハ絞斬ニ處スル律ヲ改メ懲後終身其故殺スル者ハ斬

其他五等親ノ尊長ヲ毆ツ者凡人鬪傷ヲ以テ論ス

○八年第八十四号白川縣例 十月五日  
凡人門毆後ニ手ヲ下シテ理直ナル者ハ本罪ニ二等ヲ減スト有之親屬門毆ニ於テハ其文ナシ故テ法律條成門毆律門毆條ヲ查スルニ若因門云々ト有之就テハ細領五等親圖中二等ノ尊長ヲ毆ツ者ハ概シテ右減等ヲ准サス將々又三等親以下トモ曾祖父母祖父母夫ノ祖父母繼父高祖父母外祖父母ヲ毆ツハ他ノ尊屬ト異ナルヲ以テ仍ホ二等ノ尊長ニ准比シ減等ヲ准サス其餘凡人ト均シシ減等ヲ共(一)何可有之哉(二)以下外親屬ヲ用フベキ者ハ仍ホ法律ヲ酌量ハ物ヲ科斷致スヘキ(三)伺ノ通

○七年第七十四号兵庫裁判所例 第三  
西田茂左門供實父元次郎死テ其ハ木々幼弱ニ升水戸勤王門三男泰次郎ニ自分実母々々ヲ毆ワセ繼父ニ實受實父跡式相續致サセ居候内自分追々壯年ニ及ヒ候ニ付泰次郎ハ退隱自分後家督相續罷在候然ル處本年十月泰次郎餘程酩酊立歸候ハ平素ノ事ニ付意ニ

ハ絞死ニ至ル者ハ斬故殺スル者モ罪同

毆三等親以下尊長  
凡卑幼三等親ノ尊長ヲ毆ツ者ハ徒一年四等親ノ尊長ハ杖一百折傷以上ハ凡鬪傷ニ一等ヲ遞加ス篤疾ハ絞死ニ至ル者ハ斬故殺スル者モ罪同

若シ尊長卑幼ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スル勿レ折傷以上ハ五等親ノ卑幼ハ凡人ニ二等ヲ減シ四等親ハ各二等ヲ遞減シ死ニ至ル者ハ絞故殺スル者モ罪同

毆二等親尊長  
凡弟妹兄弟ヲ毆ツ者徒二年傷スル者徒二年半折傷スル者ハ流二等廢疾

毆三等親以下尊長條例  
第二百二十四條 凡卑幼三等親ノ尊長ヲ毆テ篤疾ハ絞改テ懲後終身死ニ至ル者ハ斬改テ絞其故殺スル者ハ斬若シ尊長三等親以下ノ卑幼ヲ毆テ篤疾及ヒ死ニ至ル者ハ絞改テ懲後終身其故殺スル者ハ絞

第二百二十五條 凡卑幼三等親以下ノ尊長ヲ過失殺傷スル者ハ並ニ凡人過失殺傷ヲ以テ論シ收賅スルヲ聽ス

毆二等親尊長條例  
第二百二十六條 凡卑幼二等親ノ尊長及ヒ外祖父母ヲ過失殺傷スル者ハ

新律綱領 ○ 毆傷律

改定律例 ○ 毆傷律



モ不懸一同ニ寝リ申ス可段申向ケ目介  
ハ打臥處處泰次郎儀自今ノ先ニ寝臥ス  
ルヲ不快ノ様子ニテ忽チ引起シ臺階へ  
連行痛ク呵責致ナレ候ニ付少シ申譯致  
處彌奮激不却者ト小刀ヲ以突付テ候ニ  
付直ニ同人ノ両手ヲ扼シ相止候ヘテ勢  
難防ニ付突放シ候處止リ得ス上カリ口  
ヨリ踏落シ切石ノ角ニテ頭ノ後口ヲ打  
碎キ即時絶命致シ候  
◎設犯ノ繼父手素酒ヲ好ミ一日酔町シ  
テ家ニ皈ルニ夜己ニ深更ニ及フ依テ家  
族ト同シ寢室ニ就ントスルニ繼父其我  
ヨリ先キニ寝ルヲ呵責ス詠犯之ヲ謝ス  
ルト虽モ益憤激シ竟ニ小刀ヲ以突懸ン  
トス詠犯防禦ノ爲メ其両手ヲ扼シ突放  
スノ除繼父轉倒シ他物ニテ頭上ヲ打テ  
偶死ニ至ル素ヨリ毆打ニ意アララズ當場  
切迫ノ勢事不慮ニ出ルヲ以テ情狀故殺  
ト同シカラス改定律例第二百二十四條  
卑幼三等親以下ノ尊長ヲ過失殺傷スル  
者凡人過失殺傷ヲ以テ論シ收賧スル  
ヲ聽スト云ニ依リ收賧金四十兩ヲ給ス  
ヘキ處同居ニ係ルヲ以テ 兇罪 武家門  
ハトシノ家ナキモ當後ノ限ニ於テ

ニ至ル者ハ、流三等篤疾ニ至ル者ハ、絞  
死ニ至ル者ハ、皆斬故殺スル者ハ、皆梟  
若シ姪伯叔父姑ヲ殺チ。及ヒ外孫。外祖  
父母ヲ殺ツハ、各一等ヲ加フ。癘疾以上  
ハ、兄弟ヲ殺ツト罪同。  
其過失殺傷スル者ハ、各本殺傷罪ニ  
等ヲ減シ。收賧スルヲ聽サス。  
若シ兄弟姊妹ヲ殺殺シ。伯叔父姑。姪ヲ殺殺  
シ外祖父母外孫ヲ殺殺スル者ハ、徒三年。故殺スル  
者ハ、流二等。過失殺スル者ハ、各論スルヲ勿レ。  
**毆祖父母父母**  
凡子孫祖父母父母ヲ毆チ。及ヒ妻妾夫祖  
父母父母ヲ毆ツ者ハ、皆斬殺スル者ハ、皆梟過  
失殺スル者ハ、流三等。傷スル者ハ、徒三年。並

各本殺傷罪ニ等ヲ減スル律ヲ改メ  
殺ス者ハ、懲後二年。傷スル者ハ、懲後百日  
並ニ收賧スルヲ聽サス。  
第二百二十七條 凡兄弟姊妹ヲ殺チ。  
篤疾ニ至ル者ハ、絞改テ。懲後終身。死ニ  
至ル者ハ、皆斬改テ。比皆姪若シ姪伯叔父  
姑ヲ殺チ。及ヒ外孫。外祖父母ヲ殺チ。篤疾  
及ヒ死ニ至ル者。罪亦同。  
**毆祖父母父母條例**  
第二百二十八條 凡子孫祖父母父母  
ヲ殺チ。及ヒ妻妾夫。祖父母父母ヲ殺チ。律ヲ改  
メ。毆ツ者ハ、懲後十年。傷スル者ハ、懲後

○七年第八号小田縣同。一月十五  
五等親中卑幼尊長ヲ毆ツノ類假令ハ、四  
等親ノ曾孫ニシテ其高祖父母ヲ毆ツハ  
トノ罪モ再従弟妹ニシテ僅ニ長ノ再従  
兄弟ヲ毆ツ如ニノ罪モ同シク魚幼尊  
長ヲ毆ツヲ以テ論シ更ニ權衡區別無之  
◎高祖父母ハ等親中親圖ニ掲ルト虽  
モ人命關緊等云云高祖父母ニ對シシ  
犯罪ハ祖父母ト同シ論ス可シ則改定律  
例第八十一條ニ詳テ其再従弟妹ノ再  
従兄弟ヲ毆ツハ何ノ通四等親ノ尊長ヲ  
毆ツヲ以テ論スルヲ改テ。流スルハ五  
○七年第七号大分縣同。二月五日  
祖父母父母ヲ罵ル者ハ各親カラ告ヲ待  
テ坐スト之アリ候ヘ共若一等親以下ノ  
尊長ヲ毆ツ者ハ、ニ坐スルハ各親カラ告  
ヲ待タサル儀ニ候哉◎一等親以下ノ尊  
長ヲ毆ツ者親カラ告ヲ待ツノ限ニアラ  
ス  
○七年第六十号宮崎縣同。三月廿三日  
凡祖父母父母ヲ殺ナルノ人即時ニ非  
ルヨリ外擲ニ行兇人ヲ殺ス者ハ謀殺ヲ  
以テ論ストアリ右行兇人逃亡シテ官刑ヲ  
如ルヲ能ハス偶子孫行兇人ヲ目撃シ宜

ニ收賧ヲ聽サス。若シ子孫ヲ故殺スル  
者ハ、徒三年。嫡母ノ殺スハ、一等ヲ加ヘ。  
繼母ハ、流三等。  
其子孫祖父母父母ヲ毆罵シ若シハ、教  
令ニ違犯シテ祖父母父母督責シ。過  
ニ死ニ致シ。及ヒ過失殺スル者ハ、各論  
スルヲ勿レ。  
**妻妾與夫親屬相毆**  
凡妻妾夫ノ二等親以下。四等親以上ノ  
尊長ヲ毆ツ者ハ、夫ノ毆ツト同罪。流  
三等。止ル死ニ至ル者ハ、各斬。故殺ス  
ル者モ罪同。

終身。死ニ至ル者ハ、皆斬。故殺スル者ハ、  
皆梟。過失殺スル者ハ、懲後三年。傷ス  
ル者ハ、懲後二年。並ニ收賧スルヲ聽サス。  
第二百二十九條 凡繼母前妻ノ子。非  
理ニ毆打シテ折傷以上ニ至ル者ハ、關傷  
ニ三等ヲ減シ。死ニ至ル者ハ、懲後七年。  
第二百三十條 凡子孫教令ニ違犯ス  
ト雖モ祖父母父母非理ニ毆殺スル  
者ハ、懲後二年半。  
**妻妾與夫親屬相毆條例**  
第二百三十一條 凡妻妾夫ノ二等親  
以下。四等親以上ノ尊長ヲ毆チ。死ニ  
至ル者ハ、各斬改テ。其故殺スル者  
ハ、斬。

新律綱領 ○關毆律

改定律例 ○關毆律





夫ヲ罵ル者ハ並ニ凡人罵詈ニ一等ヲ如  
 一可然哉凡凡人罵詈律ニ依テ科罰ス  
 ○凡平民本属ニ非ル等外吏區戸長選卒  
 番人ヲ罵リ若クハ區戸長選卒番人其本  
 属ニ非サル等外吏ヲ罵ルハ凡人罵詈ヲ  
 以テ論シ候哉本属ト同ク如テシ候哉  
 ◎等外吏及ト選卒番人ヲ罵ルハ本属ニ  
 非スト要モ律一併ノ通區長等本属ニ  
 非サル等外吏ヲ罵ルハ第三條ノ通區長  
 權モ難相立候ニ付右平民ノ例ニ照シ處  
 置可然哉同ノ通  
 ○七年第七十二号統摩縣伺 一月十五日  
 旭市官ニ置處ノ警察捕七吏等外ヲ罵ル  
 者ハ改定例二百三十七條本属ニ非ル選  
 卒ト同シテ論シ可然哉但区長ヲ罵ル者  
 可然哉論シ ⑤本文但言共同ノ通  
 ○八年第七十九号統摩縣伺 三月十日  
 選卒ニ等シキ行政司法ノ警察ヲ兼ル  
 捕丁及ヒ番人ヲ罵ル者ハ選卒ト同ク凡  
 人罵詈ニ一等ヲ如テ論シ可然哉凡凡人罵詈律ニ依テ科罰ス  
 ○八年第九十八号伺書 三月廿八日  
 律例中守備ノ法卒ヲ罵詈スル定則然之  
 依テ凡人ト同ク論スルハ極ニ二過ノ  
 兵卒ノ職守違テト粗相似タハ律上ノ  
 推測モ亦同トスル九當ト存候依テ別  
 紙ノ通り律案ヲ設ク差出候右陸軍省  
 コリ成法無之處分差支候趣申越候  
 旨早々御決定御頒布相成度條列  
 用際伺候 ⑥伺ノ趣條例増補ノ儀ハ即  
 今雜問屆後條ハ務ニ服スル兵卒ヲ罵ル  
 者ハ巡查ヲ罵ル律ニ照シ處刑可致事  
 ○八年律百号改定例 三月十九日  
 關敵罵詈ハ官ニ發見セサル内私和ス  
 レハ不問ニ置可キ旨兼テ御指合有之  
 候所官吏及ヒ祖父父母其他尊長ヲ罵  
 詈シ又ハ罵詈スルノ類モ亦 如スレハ  
 不問ニ置可然哉但拒段官司差八等ノ  
 合ニ於テ改定スルハ本吏ノ ⑦祖父父母  
 罵詈ニ付テハ心得可然哉 ⑧祖父父母  
 母ヲ罵ルハ親ノ告ルヲ待坐スルノ明支  
 アリ門改罵詈ノ類ハ律ニ於テ私和ヲ聽  
 スノ文ナシト云モ其損傷ニ至ラスシテ

罵詈者ハ答五十。三等親ノ尊長ハ杖六  
 十。若シ兄弟ノ罵詈者ハ杖九十。伯叔父  
 姑外祖父母ハ杖一百。若シ妻妾六ノ有  
 服尊長ヲ罵詈者ハ夫ノ罵ルト罪同並  
 ニ尊長ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス  
 罵詈祖父母父母  
 凡子孫祖父母父母ヲ罵リ及ヒ妻妾夫  
 祖父母父母ヲ罵ル者ハ並ニ流三等  
 祖父母父母ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス  
 凡子孫祖父母父母ヲ罵リ及ヒ妻妾夫  
 祖父母父母ヲ罵ル者ハ並ニ流三等  
 祖父母父母ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ス  
 罵詈祖父母父母條例  
 第二百三十八條 凡子孫祖父母父母  
 ヲ罵リ及ヒ妻妾夫ノ祖父母父母ヲ  
 罵ル者ハ流三等ニ處スル律ヲ改メ  
 並ニ懲役三年。

新律綱領 ○罵詈律

改定律例 ○罵詈律

者ハ懲役四十日並ニ親ヲ聞テ乃坐  
 人。

第二百三十六條 凡奏任官勅任官ヲ  
 罵ル者ハ判任官奏任官ヲ罵ルト罪  
 同シ其勅任官奏任官ヲ罵リ及ヒ奏  
 任官判任官ヲ罵ル者ハ並ニ凡人罵  
 詈ヲ以テ論ス。

第二百三十七條 凡平民本属ノ戸長  
 ヲ罵ル者ハ凡人罵詈ニ一等ヲ如テ  
 選卒ヲ罵ル者ハ又一等ヲ加テ

凡奴婢家長ヲ罵ル者ハ徒一年雇人家  
 長ヲ罵ル者ハ杖八十並ニ家長ノ親ヲ  
 告ルヲ待テ乃坐ス。

罵有服尊長  
 凡卑幼四等親ノ尊長及ヒ妻ノ父母ヲ





<p>糾スルニ衣服体相果シテ相類スト雖モ 決シテ某姓ノ所為ニ非ザル確証ヲ得之 ヲ告訴スル者ニ問フ告訴者初ニ倉卒時 間ノ誤認ナルヲ疑ル故意懐挾スル所 アリテ無キヲアリトスルモノニ非ズ一時 輕率ノ過ナリ如此モノ猶告訴又坐ノ律 ニ問フ甚々安クシテ本邦律正條無之如 何可處哉</p> <p>○八年第七十号高知縣同 刑法裁判ノ儀ハ現行犯者ニ就テ其罪 ヲ彈シ刑典ニ處シ其意ヲ愆シノ候儀ハ 論ヲ談ク然ル處當斷ノ如キ僻遠ニ テ頑梗弗平ノ人民多ク動セズレハ金銀 其他相對貸借ヲナシ返納延滞義務ヲ盡 ササルヨリ異論ヲ生シ其未民法裁判ヲ 乞トモ七證書上犯則有之採用不致且無 証據等ノ類畢竟熟議不相整ヨリ官ノ裁 斷ヲ仰カン為ニ無謂罪名ヲカキ撰ニ吟 味願出ル者性々有之右之類ハ最初ヨリ 取擧グシテ可然哉若シ採擧ケ推問ヲ遂 ル時ハ前件ノ如ク其相對貸借ノ儀ヲ 容易ニ罪名ヲ唱訴候儀ニ決スル時ハ証 告ノ罪ヲ問ハサルヲ得スト至モ根元意</p>	<p>十二止ル財ヲ受ケテ受理セサル者ハ 贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス</p> <p>聽訟回避 凡官吏訴訟人ト親族若クハ師弟及ヒ 警隊アル者ハ並ニ回避スルテ聽ス違 フ者ハ罪ニ増減ナシト雖モ答三十若シ 増減アル者ハ故出入罪律ヲ以テ論ス</p> <p>誣告 凡人ヲ誣告スル者ハ罪ノ輕重ニ從ヒ 已ニ決配シ未タ決配セサルヲ問ハス 告人ヲ反坐ス死罪ニ誣告シテ未タ處 決セサル者ハ一等ヲ減ス 若シ二事以上ヲ告ルニ重事ハ實ニシテ 輕事ハ虛及ヒ數事ヲ告テ罪等キニ事</p>	<p>第二百三十九條 凡收賂賂罪ニ該ル 罪ヲ以テ人ヲ誣告スル者ハ即チ收賂 賂罪ニ反坐ス若シ已ノ罪ヲ避ンテ 規リ人ヲ誣告スル者ハ原罪收賂賂罪 ニ該ルト雖モ反坐ノ罪賂フヲ聽サ ス婦女ノ犯ス者モ亦此例ニ依ル</p>
--	---	--

<p>誣ノ民情ヨリ已ニ罪ノ歸ス事ヲ不知詐 出ル者ニ有之其情仰憫認スヘキ者ニ付 彼是按上差支候右ハ如何可處哉</p> <p>○無罪罪名ヲカキ吟味願出証告ノ證據 平ナル者ハ刑法ニ付スヘシ然レモ 全ク愚昧ノ情ヨリ罪ノ歸スル所ヲ不知 シテ誤認シテ訴狀ヲ下却スニシ</p> <p>○九年第五十号滋賀縣同 一月廿六日 母ニ風説ヲ信シ寫ト事矣モ取札サズ組 忍ニ他人罪ヲ犯スト警察官又ハ檢官ハ 告發スル者ハ尋常已レカ身ニ閉スル事 件ニ付吟味願ノ者トハ少ク異ナリ依テ 若シ被告ノ喉問ノ未無罪ニ歸スルモ亦 告發無安ノ原ハ不問ニ置可然哉</p> <p>○江寺ノ情ナキモノハ伺ノ通タルニシ ○七年華百九号 均至裁判同 六月廿三日 千名犯義中妻妾ノ夫ヲ告ル者モ各例律 反女犯罪不若等ノ例ニ同ク收賂ヲ聽サ ル哉</p> <p>○伺之通</p>	<p>實ナル者ハ並ニ誣告ノ罪ヲ免ス</p> <p>若シ二事以上ヲ告ルニ輕事ハ實ニシ テ重事ハ虛或ハ一事ヲ告ルニ輕ヲ誣テ 重ト為ス者ハ並ニ刺ル所ニ反坐ス 共二人以上ヲ告ルニ但々入賣ヲササ者 アルハ罪輕シト雖モ猶ホ其罪ニ反坐ス 若シ上書シテ人ヲ告ルニ已ニ奏聞シテ 事實ナラサル者反坐ノ罪徒二年ニ及ハ サル者ハ上書詐不實律ニ依テ論ス</p> <p>若シ獄囚已ニ伏罪シテ寃枉ナキニ囚 ノ親族妄訴スル者ハ囚ノ罪ニ三等ヲ 減ス罪杖一百ニ止ル</p> <p>千名犯義 凡子孫祖父母父母ヲ告ケ妻妾及夫</p>	<p>第二百四十條 凡子孫祖父母父母ヲ</p>
---	--	-------------------------

新律綱領 ○ 訴訟律

改定律例 ○ 訴訟律

祖父母。父母ヲ告ル者ハ。實ヲ得ルト雖モ。徒二年半。誣告スル者ハ。絞若シニ等親ノ尊長及ヒ外祖父母ヲ告ル者ハ。實ヲ得ルト雖モ。杖九十。三等親ノ尊長ハ。杖八十。四等親ノ尊長ハ。杖七十。妻ノ父母ハ。杖六十。其告ラルニ等三等親ノ尊長及ヒ外祖父母若シハ。妻ノ父母ハ。並ニ自主ニ同ノ罪ヲ免ヌ。四等親ノ尊長ハ。本罪ニ三等ヲ減ス。若シ誣告ノ罪重キ者ハ。各誣ル所ノ罪ニ三等ヲ加ヘ。罪流三等ニ止ル。	其嫡繼母所生母。其父ヲ殺シ。及ヒ養父母。其所生父母ヲ殺シ。若クハ二等親以下ノ尊長ニ。財產ヲ侵奪セラレ。或ハ其身ヲ毆傷セラレテ。卑幼ノ自訴スル者ハ。並ニ告ル	誣告シ妻妾。夫及ヒ夫ノ祖父母。父母ヲ誣告スル者ハ。絞ニ處スル律ヲ改メ。懲役終身
--	---	---

ヲ聽シ。告ラル。者ハ。各本律ニ依テ之ヲ科ス。干名犯義ノ限ニ在ラス。卑幼ノ告ラル。モ。亦同。	若シ卑幼ヲ告ケ實ヲ得ル者。二等三等親ノ卑幼及ヒ女婚モ。亦自主ニ同ノ罪ヲ免ヌ。四等五等親ノ卑幼ハ。本罪ニ三等ヲ減ス。誣告スル者。二等親ノ尊長ハ。誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減シ。三等親ノ尊長ハ。二等ヲ減シ。四等五等親ノ尊長ハ。一等ヲ減ス。	若シ夫妻ヲ誣告シ。及ヒ妻妾ヲ誣告スルモ。亦誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減ス。	若シ奴婢。家長ヲ告ル者ハ。實ヲ得ルト雖モ。杖九十。誣告スル者ハ。絞。雇人。家長ヲ告ル者ハ。杖六十。誣告スル者ハ。誣ル所ノ罪ニ三等
---	---	-----------------------------------	--

新律綱領 ○ 訴訟律

改定律例 ○ 訴訟律









二付例年二百四十四号ニ依リ鬼分可然  
 哉抑又詐称官者ニ財ヲ以テ請求スルハ  
 眞管吏ニ非サル者ニ付請求者ハ不問ニ  
 措キ可然哉  
 ◎本犯ノ求為ニ因ルニ非ス財ヲ以テ請  
 求スル者ハ坐賍致罪条與フル者ハ五等  
 ヲ減スト謂フニ依テ處断ス

二十兩以上。杖九十	三十兩以上。杖一百	四十兩以上。徒一年	五十兩以上。徒一年半	六十兩以上。徒二年	七十兩以上。徒二年半	八十兩以上。徒三年	九十兩以上。流一等	一百兩以上。流二等	一百一十兩以上。流三等	二百五十兩以上。絞	等外人ハ。三百兩以上。絞	不枉法ノ贓。各主ル者。通算シテ全科ス	一兩以下。笞五十
-----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	-----------	-----------	-----------	-------------	-----------	--------------	--------------------	----------

一兩以上。杖六十	一十兩以上。杖七十	二十兩以上。杖八十	三十兩以上。杖九十	四十兩以上。杖一百	五十兩以上。徒一年	六十兩以上。徒一年半	七十兩以上。徒二年	八十兩以上。徒二年半	九十兩以上。徒三年	一百兩以上。流一等	一百一十兩以上。流二等	一百二十兩以上。流三等	三百兩以上。絞
----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	-----------	-----------	-------------	-------------	---------

新律綱領 ○受贓律

改定律例 ○受贓律



○七年第九号滋賀縣令 一月十五日  
以財請求條令ハ甲乙申合セ一車ヲ請  
求スルニ五十圓ヲ贈ル節申一已ノ了  
ヲ以テ五十圓ヲ贈加シ百圓ヲ持テ此  
乙ノ罪ヲ斷スルニ其知ル所ノ五十圓ヲ  
賍ニ計ハ炭炭又ハ全數ヲ計ハ炭炭  
○乙全シ情ヲ知ラサレハ所知ノ賍ニ科  
ス  
○七年第百世八号滋賀縣令  
訴訟難願等ニ依リ官吏ノ受理ヲ促サン  
トシテ財物ヲ送ニ官吏據テシテ之ヲ受  
サル片ハ其送ル者ハ呵責ニ可畏哉  
○財ヲ送ルノ罪ハ不問ニ置ク  
○八年第百世二号滋賀縣令  
諸人官ニ申請スルノ事アルニ當該官吏  
ヲ踏留難シテ財物ヲ求索スル者ハ官吏  
求借財物中強ヲ用ヒテ索借スル者ハ  
枉法ニ準シテ論スト云ニ比擬論決シ若  
シ其賍未タ手ニ入ラサル者ハ聽許財物  
条ニ未タ接受セサル者ハ云々各一等ヲ  
減スト云フニ權衡ヲ取リ枉法賍一圓以  
下後後七十日ニ一等ヲ減ス同六十日ニ  
坐ス一キ哉  
○何ノ通官吏求借財物条ニ依テ論ハ敗

聽許財物  
凡官吏財物ヲ送ル一ヲ聽許スレハ未  
ク接受セスト雖モ事若シ枉ル者ハ枉  
法ニ準シテ論シ事枉ケサル者ハ不枉  
法ニ準シテ論シ各一等ヲ減ス枉ル所  
重キ者ハ各重キニ從テ論ス  
以財請求  
凡諸人事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ  
法ヲ枉ル一ヲ得ント欲スル者ハ與  
ル所ハ財ヲ計ハ坐賍ニ依テ論ス若シ  
難ヲ避ケ易ニ就キ枉クル所ノ罪重キ  
者ハ重キニ從テ論ス  
若シ官吏刁濫留難ト歸結ヲ与ヘス及ヒ  
強ヲ用テ別ニ事ヲ生シ逼抑シ財ヲ取

以財請求條例  
第二百四十四條 凡枉法ノ事ニ非  
ト雖モ財ヲ以テ官吏ノ受理ヲ請求  
スル者ハ与テフル所ノ財ヲ計ハ坐賍  
ニ依テ論シ一等ヲ減ス

未タ得サル者ハ一等ヲ減ス但監臨ニア  
ルハ又一等ヲ減ス等外ハ  
○九年第五十六号滋賀縣令 五月四日  
七年第九号部民云々官吏ハ属以上ヲ云  
ト相見ハ然レハ官吏求借財物条中ニ  
所部内ト稱スルモノモ官十三等以上ノ  
者ヨリ奉職地方ノ人民ニ對スル辭ニ可  
有之哉果シテ然ラハ監臨官十四等以下  
等外ニ至ル迄本条ノ罪ヲ犯ス者如何心  
得可然哉若シ其職監臨ニ在ル者ハ等  
級上下ノ區別無一體ニ本条ニ依テ科  
斷スル儀ニモ可有之哉  
○官吏求借財物律ハ其職監臨ニ係ル  
者ハ皆此律ニ依テ論ス明治七年滋賀縣  
令指合ハ昨年第百三号ヲ以テ消滅スル  
儀ト心得ヘシ  
○九年第五十号滋賀縣令 四月廿六日  
正副戸長アリ甲ヲ正長ト為ス乙丙ヲ副  
長トス受ニ檢田費ノ賦課スルニ當テシ  
計算主トシ私カニ費額幾分ヲ加ハ丙  
ヲシテ之ヲ取立レム丙取立タル全數ヲ  
乙ニ交ス乙其如差ノ金ヲ已レニ存シ其  
餘ヲ甲ニ交シ檢費ニ充シテ後件ニ  
如キハ乙已レニ存スル所ノ金ヲ賍ニ計

受スル者ハ錢ヲ出ス人ハ坐セス  
官吏求借財物  
凡監臨官吏勢ヲ挾ミ所部内ノ財物ヲ  
求索借貸スル者ハ並ニ賍ニ計ハ不枉  
法ニ準シテ論シ強ヲ用ヒテ索借スル  
者ハ枉法ニ準シテ論シ罪流三等ニ止  
ル其監臨ニアラサル官吏ハ各一等ヲ減  
ス若シ官去リ所部内ノ財物ヲ受ケ及ヒ求  
索借貸スル者ハ各在官ノ時三等ヲ減ス  
家人求索  
凡監臨官吏ノ家人奴僕所部内ニ於テ  
財物ヲ取受ト及ヒ求索スル者ハ各監臨  
官吏ノ罪ニ等ヲ減ス監臨ニアラサル官吏  
ノ家人奴僕ハ又一等ヲ減ス若シ監臨

改定律例 ○受賂律

受賄律因公科斂條第一項ニ依リ枉法ヲ以テ論ス可キ哉素スルニ清律因公科斂律註內ニ云々因之推考スルハ該犯ノ按田貴賈賦課スルヨリ擅自科斂スル者ニ非ス所謂公事ヲ行辨シ科斂入己者ニ誤リ庶政果シテ然ラハ因公科斂條第二項ニ依リ枉法ヲ以テ論シ等外吏私罪例ニ照シ贖ヲ聽シ可申哉  
②枉法ヲ以テ論ス

官及ヒ官吏情ヲ知ル者ハ同罪罪流三等ニ止ル知ラサル者ハ坐セズ

因公科斂

凡官吏公務ニ因テ擅ニ所部内ノ財物ヲ科斂スル者ハ已レ入レスト雖モ管五十

贓重キ者ハ坐贓ヲ以テ論ス已レ入ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス

其公務内ニ非スレテ所部内ノ財物ヲ科斂レ已レ入ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス若シ科斂シテ人ニ餽送スル者ハ已レ入レスト虽モ罪同

凡巡捕官吏已ニ盜賊ヲ獲テ贓物ヲ留シ官司ニ送ラサル者ハ管三十已レ入ル

留盜賊

凡巡捕官吏已ニ盜賊ヲ獲テ贓物ヲ留シ官司ニ送ラサル者ハ管三十已レ入ル

凡巡捕官吏已ニ盜賊ヲ獲テ贓物ヲ留シ官司ニ送ラサル者ハ管三十已レ入ル

者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス

受外國人餽送

凡官吏私ニ外國人ノ餽送ヲ受ケ即時ニ官ニ告ケサル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス

受外國人餽送條例

第二百四十五條 凡外國人ノ餽送スル飲食士宜等交際ノ禮ニ係リ互ニ相贈遺スル者ハ官ニ告ケスト雖モ以不枉法論ノ限ニ在ラス







官ノ印影ヲモ模擬スルニ依リ仍本府縣  
ノ大書ヲ詐為スル者ヲ以テ論ス  
○指合録第廿四號廣島縣同  
○七年第百六号東京裁判所同 六月九日  
大隈院住職守村信助供六年十月初旬  
ヨリ下谷萬年町高橋與吉事うちハ  
三度敷通シ向同月下夜夜ちハ佛地寺ハ  
縣越後即時人共ニ間ニ是ノ簿圖ヲ數  
ヲ先私滿園上居リ之ハ餘住居致致  
協合計長夫与吉突然入来、森達見覺  
リ重ニ從テ論ス

凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ絞首臺處刑  
府藩縣ノ印ハ流一尋餘ノ印ハ徒一年  
未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減ス財  
ヲ得ル者ハ各盜罪ヲ以テ重キニ從  
テ論ス

懲後八十日  
偽造官印條例  
第二百四十八條 凡官ノ印ヲ偽造ス  
ル者ハ絞首臺ニ處スル律ヲ改メ懲後終  
身  
改正偽造實貨律  
第二百四十九條 凡實貨ヲ偽造シ已  
ニ行使スル者ハ斬從及ハ匠人若ク  
ハ情ヲ知テ買使スル者懲後終身其  
雜役ニ供スル者懲後十年未タ行使  
セサル者ハ各一等ヲ減ス  
其偽造未成ニ止ル者懲後三年從  
及ハ匠人ハ懲後二年半雜役者懲後百

官ニ呼ハリ兩人ヲ打擲シ障子ニ本打  
毀キ際私ハ其場逃避シ他人ニ被テ類ニ  
全拾圓ヲ以テ私和セシ其事世間ニ茶  
話トナリ新聞ニ記載スルニ至リシハ全  
シ向旭院留守居宣願、淺草江田儀兵衛  
ノ所為ニ可有之ト察シ就而ハ已レノ御  
吟味ヲ蒙ラサル前却テ彼等ヲ誣告シ一  
ニハ身ノ禍ヲ逃レニハ表ノ謗ヲ避シ  
ト存シ右兩人ニテ無根ノ説ヲ言觸シ善  
良ノ私ヲ免罪ニ陥ルハト祈ニ取持ヘ  
出訴セシ所遂ニ惡事露頭ニ及ヒ候已  
カ所犯ヲ赦ハン為メ不笑ヲ上告スルモ  
ノ改定律例第百四十七條上ニ告ルニ  
詐テ実ヲ以テセサル事情輕キ者ニ擬シ  
懲役八十日ノ所寺職タルヲ以テ 禁錮  
八十日 中村信助ハ本夫私和ヲ容  
○七年第百六十七号埼玉縣裁判所同 四月  
神戸仙藏見忠キ楮幣ヲ以テ遠試方伊三  
郎ニ托ト頭モ到盛真幣ニシテ只手摺レ  
等ノ為メ人ノ嫌フト誤認スルノミナレ  
ハ例二百五十八條偽造ニ係ルヲ知リ云  
々ニ擬シ難シ然ルト雖再度通用支ルヲ  
仍本檢視ヲ經入遺得メント欲スルヲ以テ  
則刑律ノ推衡ニ依リ更ニ不應為輕ニ問

偽造實貨  
凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ絞首臺處刑  
府藩縣ノ印ハ流一尋餘ノ印ハ徒一年  
未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減ス財  
ヲ得ル者ハ各盜罪ヲ以テ重キニ從  
テ論ス

目。  
若シ過ヲ悔ヒ自首スル者已ニ行使  
スルハ二等ヲ減シ未タ行使セサル  
ハ罪ヲ免ス  
偽造實貨條例  
第二百五十條 凡金銀貨幣ノ邊縁ヲ  
剪錯シテ利ヲ取り行使スル者ハ懲  
役三年  
第二百五十一條 凡紙幣ノ字樣ヲ挑  
剋シ成片ヲ捕轆シ筆畫ヲ描故シ真  
ヲ以テ偽ニ作り行使スル者ハ懲役  
五年  
第二百五十二條 凡偽造タルヲ知  
テ買取シ未タ行使セサル者ハ已買使

新律綱領 ○詐偽律

改定律例 ○詐偽律



○七年第九十四号足柄裁判所同二條  
私印ヲ偽造スル者其本律有之候所其情  
由テ開知シテ為ニ彫刻スル者ノ律文無  
之右ハ空價ヲ偽造スル百入ノ推衡ニ依  
リ本犯ニ一寺ヲ減シ可科斷哉但偽造  
シテ未ダ行使セザル者ハ官印ヲ偽造  
シ行使セザルノ例ニ照シ一等ヲ減シ可  
然 右彫刻者受ル所ノ財ハ官沒シ可然  
裁本條但書共同之通

○八年第二十五号濱田縣同  
私印ヲ偽造スル者ハ杖一百財ヲ得ル者  
ハ贓ニ計ヘ各盜罪ヲ以テ重ニ從テ論ス  
ト有之處既ニ金錢借貸費用スル上ハ返  
弁ノ意有ルノ蹤跡明カナリト雖盜罪ヲ  
以テ論哉又ハ返弁ノ意アルハ不論儀ニ  
可有之裁私印ヲ偽造シテ金錢ヲ借用  
スル者ハ偽造ノ罪懲役百日ヲ科シ負債  
金ハ民事ノ裁判ニ付シテ處分可シ

租シ情狀ニ依リ民事ノ裁判ニ付シ難  
キ者アラバ口書ヲ以テ伺出ベシ  
○指令録第十六号京都裁判所同  
甲ノ祖先トシテ先代ニ其居宅ヲ書入ニシ  
貸渡セシ金員未嘗済セサル証書ヲ以テ甲  
乙ヲ相手取官ニ訴返辨責ムルニ於テ  
先代ノ負債ニシテ且既多ク返金モ済

タルニ依リ丙ノ宅ニ到事由ヲ語其入金  
セシ丙ノ回替ヲ出シ出請ノ金額返済ノ  
義務ヲ免ンコトヲ策シ乙丙日果テ策  
リ若謝金若シテ時ニテ其其其其其  
ヲ免カレシメ乙其其其其其其其其其  
差ヤ丙其回替ヲ餘自ニ殘金何額勸辨シ  
皆濟其年月ト記入シ先代ノ印形ヲ偽造  
捺用シ其回替ヲ以皆濟ノ答辨ニ及ニ依  
リ甲終ニ許狀却下ヲ願一件落着ヒシ悉  
丙ノ罪露頭セリ此丙ノ父ル金ニ於テ全  
家救ニ因テ得ルト雖乙ノ贈遺セシモノ  
ニ係ニ依リ直ニ準盜罪ニ擬スルモ權官  
ナラサル覺知是ハ如何可擬斷哉私ノ  
印書ヲ偽造スルヲ以テ論シ丙父ル野  
匪ハ狂法ニ準シ重ニ從テ處斷ス

○九年第五十六号師尾縣同 五月  
罪囚紀訊ノ除盡或ハ甲村ヲシ村ト偽  
リ他ノ罪ヲ以處斷ノ後原籍該村ノ始未  
查覺スル時ハ不應為輕ニ問ヒ規避スル  
テ論スルニ及ハス○前條ノ罪囚原籍地  
ヲ詐稱スルハ唯汚名ノ御呈ニ傳播スル  
ヲ耻ナ他ニ規避スル所アルニ非  
サル者先キニ紀訊ノ除盡

○七年第九十四号足柄裁判所同二條  
私印ヲ偽造スル者其本律有之候所其情  
由テ開知シテ為ニ彫刻スル者ノ律文無  
之右ハ空價ヲ偽造スル百入ノ推衡ニ依  
リ本犯ニ一寺ヲ減シ可科斷哉但偽造  
シテ未ダ行使セザル者ハ官印ヲ偽造  
シ行使セザルノ例ニ照シ一等ヲ減シ可  
然 右彫刻者受ル所ノ財ハ官沒シ可然  
裁本條但書共同之通

偽造私印  
凡私印ヲ偽造スル者ハ杖一百財ヲ得  
ル者ハ贓ニ計ヘ各盜罪ヲ以テ重キニ  
從テ論ス  
詐稱官  
凡無官ニシテ有官ト詐稱シ或ハ官司  
ノ差遣ト詐シテ人ヲ捕ヘ及ヒ官員ノ  
姓名ヲ詐冒シテ求為スル所アル者ハ  
從二年半犯ス所輕キ者ハ杖七十  
若シ見任官ノ子孫弟姪家令等ト詐稱  
シテ求為スル所アル者ハ杖九十犯ス  
所輕キ者ハ笞三十從タル者ハ各一等  
ヲ減ス  
若シ財ヲ得ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準

查官吏朦朧交收スル者罪亦同  
同六年八月二日第二百七十九号御布告  
偽造斛斗秤尺條例  
凡斛斗ノ邊縁ヲ増補シ秤量ノ標星縣  
紐ヲ變換シテ利ヲ圖ル者ハ懲役一  
年半情輕キ者ハ不應為律ニ問ヒ輕  
重ヲ分ツ  
詐稱官條例  
第二百五十九條 凡郷貫名氏ヲ詐稱  
シテ客屋ニ宿スル者ハ不應為輕ニ  
問フ

タルニ依リ丙ノ宅ニ到事由ヲ語其入金  
セシ丙ノ回替ヲ出シ出請ノ金額返済ノ  
義務ヲ免ンコトヲ策シ乙丙日果テ策  
リ若謝金若シテ時ニテ其其其其其其其  
ヲ免カレシメ乙其其其其其其其其其  
差ヤ丙其回替ヲ餘自ニ殘金何額勸辨シ  
皆濟其年月ト記入シ先代ノ印形ヲ偽造  
捺用シ其回替ヲ以皆濟ノ答辨ニ及ニ依  
リ甲終ニ許狀却下ヲ願一件落着ヒシ悉  
丙ノ罪露頭セリ此丙ノ父ル金ニ於テ全  
家救ニ因テ得ルト雖乙ノ贈遺セシモノ  
ニ係ニ依リ直ニ準盜罪ニ擬スルモ權官  
ナラサル覺知是ハ如何可擬斷哉私ノ  
印書ヲ偽造スルヲ以テ論シ丙父ル野  
匪ハ狂法ニ準シ重ニ從テ處斷ス

○九年第五十六号師尾縣同 五月  
罪囚紀訊ノ除盡或ハ甲村ヲシ村ト偽  
リ他ノ罪ヲ以處斷ノ後原籍該村ノ始未  
查覺スル時ハ不應為輕ニ問ヒ規避スル  
テ論スルニ及ハス○前條ノ罪囚原籍地  
ヲ詐稱スルハ唯汚名ノ御呈ニ傳播スル  
ヲ耻ナ他ニ規避スル所アルニ非  
サル者先キニ紀訊ノ除盡

○七年第九十四号足柄裁判所同二條  
私印ヲ偽造スル者其本律有之候所其情  
由テ開知シテ為ニ彫刻スル者ノ律文無  
之右ハ空價ヲ偽造スル百入ノ推衡ニ依  
リ本犯ニ一寺ヲ減シ可科斷哉但偽造  
シテ未ダ行使セザル者ハ官印ヲ偽造  
シ行使セザルノ例ニ照シ一等ヲ減シ可  
然 右彫刻者受ル所ノ財ハ官沒シ可然  
裁本條但書共同之通

新律綱領 ○詐偽律

改定律例 ○





本文ノ如キモ亦本夫ノ親告ニ非ナレハ受理ス

○七年第百八十一号京都裁判所何  
七年百塚縣ヨリ民費ヲ以テ雇置シ番人  
犯罪ノ處女ヲ捕縛シ護衛中其罪囚ト通  
致致ス者處斷何ニ不應爲重責斷スト御  
指揮相見候然ハ其番人本籍士族ニ係ラ  
ハ破廉耻甚テ以テ論議○伺ノ通

○七年第百八十七号島根縣伺  
本夫姦夫姦婦ヲ姦テ於テ撞見スルニ  
非ス又姦夫姦婦ヨリ吐露スルニ非ス外  
ニ確證アリテ本夫ヨリ訴フルトキハ他  
人ノ指稱ニ係ル者ノ外ト見効シ可然哉  
○伺ノ通

○七年第百八十九号山口縣伺十一月廿三  
人妻ニシテ寡婦ト許稱シ姦通シ姦夫固ヨ  
リ有夫ヲ知ラサル者無罪ナルヘキヤ○  
伺ノ通

○八年第九号三浦縣伺  
酌取女ト唱ヘ料理店等ニ雇居者答ノ挑  
ミニ應シ和姦致シ金錢又ハ物等受用  
致候即ハ其金錢物品等ヲ請取。以テ賣  
渡シ處方致可然哉未亡人處女等モ和姦  
ノ末金錢物品ヲ受用致候ハ是又同様

新律綱領

犯姦律

犯姦

凡和姦ハ各杖七十夫アル者ハ各徒三  
年若シ媒合及ヒ容止シテ通姦セシム  
ル者ハ犯人ノ罪ニ一等ヲ減ス強姦ス  
ル者ハ流三等未タ成ラサル者ハ一等  
ヲ減ス因テ折傷スル者ハ絞婦女ハ坐  
セス十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者ハ  
和ト雖モ強ト同ノ論ス

親族相姦

凡父祖ノ妾姑姉妹及ヒ子孫ノ婦兄弟等  
女ヲ姦スル者ハ各流三等強姦スル者斬

改定律例

改正犯姦律

犯姦

第二百六十條 凡和姦夫アル者ハ各  
懲役一年妾ハ一等ヲ減ス若シ媒合  
及ヒ容止シテ通姦セシムル者ハ犯  
人ノ罪ニ三等ヲ減ス強姦スル者ハ  
懲役十年未タ成ラサル者ハ一等ヲ  
減ス因テ折傷スル者ハ懲役終身婦  
女ハ坐セス十二歳以下ノ幼女ヲ姦  
スル者ハ和ト雖モ強ト同ノ論ス

親屬相姦

第二百六十一條 凡父祖ノ妾伯叔姑  
姉妹及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者ハ各懲

新律綱領

○犯姦律

改定律例

○犯姦律

可處哉且數男子ト一男子ニ接シ候ト  
區別可有之哉價ヲ定メ金銀ヲ取リ流  
ヲ賣ル者ハ私娼街賣律ニ依ル價ヲ定メ  
ス止メ和治ノ後金銀等賣ト受ル者ハ不  
問ニ置ク  
○八年第四十四号濱田縣伺 三系内第一  
例第二百六十條強姦スル者ハ懲役十年  
未シ成ラサル者ハ一等ヲ減ス因テ折傷  
スル者ハ懲役終身ト有之右因ノ一字ハ  
成否共ニ係リ候哉或ハ強姦成ル者ノミ  
ニ係リ候哉且折傷以下ハ論セサル儀ニ  
候哉因ノ一字ハ成否ヲ分ク折傷以  
下ハ常律ニ依ル  
○八年第五十七号三重縣伺 七系内第一  
強姦セラレシ婦女陰門ニ傷クヲ以テ醫  
藥ノ料右一件落着迄ノ入費ヲ本犯ヲシ  
テ償ハシント請テ云々伺 婦女強姦  
ノ罪ニ處刑セラレハ以上ハ被姦ノ女  
醫藥料等ノ入費アリト云モ償ハスニ  
及ハス  
○八年第七十三号鳥根縣伺  
凡姦事ハ本夫ノ親告スルヲ待テ罪ニ擬  
スルハ七年御布達ニ依テ承知仕候處七  
百七号 福世縣 百六十 水沢縣ヨリ伺 三唐段

若シ母ノ姉妹及ヒ兄弟ノ妻姪ノ妻ヲ  
姦スル者ハ各流一等強姦スル者ハ絞  
妻ヲ姦スル者ハ各一等ヲ減ス強姦ス  
ル者ハ絞  
若シ前夫ノ女同母異父姉妹ヲ姦スル  
者ハ各徒三年強姦スル者ハ絞  
姦家長妻女  
凡奴僕雇人家長ノ妻ヲ姦スル者ハ流  
三等姦婦ハ徒三年強姦スル者ハ斬  
若シ家長ノ女姉妹及ヒ姦若クハ兄弟  
ノ妻ヲ姦スル者ハ流一等婦女ハ絞  
ヲ以テ論ス強姦スル者ハ絞妻ヲ姦ス  
ル者ハ各一等ヲ減ス強姦スル者ハ絞  
姦部民妻女

役三年強姦スル者ハ懲役終身若シ  
母ノ姉妹及ヒ兄弟ノ妻姪ノ妻ヲ姦  
スル者ハ懲役二年妻ヲ姦スル者ハ  
各一等ヲ減ス強姦スル者ハ並ニ懲  
役終身  
若シ兄弟姉妹ノ女及ヒ前夫ノ女同  
母異父姉妹ヲ姦スル者ハ各懲役一  
年強姦スル者ハ懲役終身  
姦家長妻  
第二百六十二條 凡雇人家長ノ妻ヲ  
姦スル者ハ各懲役一年半強姦スル  
者ハ懲役終身  
姦部民妻



犯姦親屬相姦雜姦等ノ如ハ第十号布達  
ノ限ニアラスト御指揮有之ルハ十滋買  
縣御指令ニ第十号布達姦事トハ云々  
親屬相姦ノ如キ夫無キ者ハ犯人ノ尊卑  
親屬ヨリ告訴スル時ハ受理ス可シ他人  
ノ指稱ニ係ルハ不問ニ置クト有之彼是  
ノ御指令相矛盾スルニ似シリ右ハ滋買  
縣ハ御指令ノ通御改正相成候義ニモ可  
有之乎果シテ然ラハ別紙罪案其姦罪ノ  
如キハ姦婦自首スルニ依テ發露シ官ヨ  
リ手ヲ下ス者ニテ本天ニ於テハ飽テ  
容隠シ官ニ准理ヲ乞フ念毫モ無之者ニ  
候ハハ不問ニ置テ可ナラン乎聊録義ヲ  
生シ候◎親屬相姦シ姦婦自盡スルニ因  
テ姦罪發露スト虽モ親屬容隠シテ告テ  
ナルヲ以テ其罪ヲ問ハス 松本益三郎  
昨七年當省第十号布達ハ親屬相姦等其  
限内ニ在ラナルヲ以テ水沢縣へ其旨ヲ  
指令ス親屬ノ告不告ヲ令スルニ非ス  
○九年第五号三重縣伺一月十四日  
七年百三十七 御指令ニ親屬姦居喪姦雜  
姦等ハ明治七年第十号布達ノ限ニ非ラ  
ス親屬ハ律ニ載スル處ノ五等親皆申  
告スルヲ得ヘシトアリ若シ右等ノ犯

凡官吏河部内ノ妻女ヲ姦スル者ハ凡  
姦罪ニ二等ヲ加フ。婦女ハ凡姦ヲ以テ  
論ス。  
居喪及僧尼犯姦  
凡父母舅姑及ヒ夫ノ喪ニ居リ若クハ  
僧尼ノ姦ヲ犯ス者ハ各凡姦罪ニ二等  
ヲ加フ。相姦スルノ人ハ凡姦ヲ以テ論  
ス。

第二百六十三條 凡官吏部民ノ妻ヲ  
姦スル者ハ懲役一年半相姦スルノ  
妻ハ懲役一年。  
居喪犯姦  
第二百六十四條 凡父母舅姑及ヒ夫  
ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ各凡姦ニ  
一等ヲ加フ相姦スルノ人ハ以テ論ス  
同六年七月三十日第二百七十四號御  
布告  
改正居喪犯姦律  
父母舅姑夫ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ各凡  
姦ニ三等ヲ加フル律ヲ改メ父母舅姑ノ  
喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ凡姦ヲ以テ論シ  
夫ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ有夫ヲ以テ

新律綱領 ○犯姦律

改定律例 ○犯姦律





辭シテ父母舅姑ノ喪居ノ姦ヲ犯ス  
 出答其本律ヲ以テ科更ニ如尋ノ例ヲ用ヒ  
 尋常無夫和姦如キハ喪ニ之ヲ犯スモ猶  
 不問置シ可シト考居候處六十九年四京都裁  
 判所例ニ律例ニ於テ凡姦ヲ以論スルトハ  
 懲役一年ニ處スルヲ云ト有テ果シテ御  
 指令ノ如ナラハ則雜姦ハ加ニ尋至處ハ加  
 一尋父祖ノ姦各減ニ尋其姦及姦長姦  
 減一尋有夫ノ婦及兄弟姦並ニ本罪加減  
 ノ限ニ無之獨リ無夫ノ女ニ於ケルヤ起  
 乘シテ輒々懲役一年ノ重ニ入リ指姦ス  
 ル人モ亦同罪ニ至ル蓋シ無夫和姦ノ今  
 ニ於ル置テ問ハサル殆ト夫妻交通スル  
 カ如シ姦ニ新例頒布ノ前ニ當リ仍ホ各  
 杖七十而喪ニ居テ犯スモ尋ヲ加ヘ杖九十  
 ニ止ル大ニ今ト同シカラス云々如尋スル者  
 アリ加減セサル者又減スル者アリ其推斷參  
 差低昂宜テ得ナル歟甚疑致候◎京都  
 裁判所ヘ指令ハ處女及ヒ姦尋懲役一年  
 ヲリ輕ク及ヒ不問ニ置クノ姦罪モ亦ニ  
 居テ犯ス者ハ懲役一年ニ處スルヲ云フ  
 義ナリ其他親屬相姦等一年ヨリ重キ者  
 ハ各姦罪ノ重ニ依テ論ス

候條此旨可相心得候事  
 凡姦事他人ノ指稱ニ係ル者ハ論スル  
 一勿レ。

○八年第五十号新治裁判所例  
 本又賭博者云々畧之但賭博ヲ賣ル者モ  
 同ニ置キ可然ヤ◎本文何之通未段陳告  
 自首モ既往ニ係ルハ亦同ノ通不問ニ但  
 書發子散牌ヲ賣ル者ハ已往ニ係ルトモ  
 本律ニ科ス  
 ○八年第九十六号熊谷縣例 十二月九日  
 ◎賭博者必ス現行犯ヲ要スルハ指卷証  
 隔ノ弊ヲ防クニ在リ其巨杆大摺巧ニ規  
 避シテ人ヲ誑誘スル等ノ如キ其憑據確  
 実ナルモハ捕縛審訊シ其情状ニ隨ヒ  
 別ニ罪ヲ問フヘシ  
 ○八年第九十九号福岡縣例 十二月十七日  
 ◎一時木牌竹札ヲ以テ金錢ノ代リトナ  
 シ博戲ヲナストモ初ヨリ財物ヲ受授  
 スル約言アル者ハ本律ニ依リ酌量シテ  
 科断スベシ  
 ○九年第五十六号磐井縣例 五月四日  
 本年第十一号大分縣例御指令ニ賭博罪  
 云々其巨杆大摺巧ニ規避シテ人ヲ誑誘  
 スル等ノ如キ其憑據確實ナルモノハ捕  
 縛審訊シテ其情状ニ隨ヒ別ニ罪ヲ問フ  
 トアリ其情状トハ何等ヲ指稱セラレタ  
 ルモノナルヤ◎情状ニ隨ヒ別ニ罪ヲ問

新律綱領目録

雜犯律計一十條
折毀揭榜場
販賣鴉片烟
賭博
囑託公事
失火
放火
費用受寄財産
得遺失物
違令

改定律例目録

雜犯律計二十三條 增補四條
賭博 四條
同改正 一條
失火 五條
同改正 一條
放火 四條
得遺失物 五條
同改正 一條
違令 一條

新律綱領 ○雜犯律

改定律例 ○目錄



可謂之... 右製造ノ屋... 賭博罪ハ...

○指令録第... 賭博罪ハ... 凡財物ヲ...

若シ官吏知テ... 賭博... 凡財物ヲ...

第二百六十九條... 凡賭博ニ犯以上ハ... 懲役一年

賭博現行犯ト... 凡法令ヲ... 凡法令ヲ...

凡法令ヲ... 凡法令ヲ... 凡法令ヲ...

第二百七十一條... 凡賭博ニ用スル... 懲役一年

新律綱領 ○雜犯律

改定律例 ○雜犯律



檀中營造スル所ノ寺院ヲ借り用区内ノ課金ヲ以費用ト為ス公立學校ヲ延焼スル者  
 民家ノ別屋又ハ半宇ヲ借り警察屯所ト為スヲ燒者ハ八ノ宅舎ヲ以テ論ス  
 区内ノ課金ヲ以テ公算スル報時所ヲ其守番又ハ他人燒失延焼スル者ハ官命ニ依リ賦課シタル金田ヲ以テ建築スル報時ナレハ公算ニ准シテ論シ酌減スベシ  
 ○八年第廿八号和歌山縣同 第一  
 家長金ヲ雇人ニ托シ與益ヲ購ハシム雇人金ヲ懐キ去テ之ヲ自己ノ回債ニ抵償ス其遺ニ與益ヲ購ヒ歸ラサルヲ以テ思ラン定メテ携帶セシト家長逐ヒ行クニ途上ニ逢著シテ之レヲ誦ス果シテ莫ヲ得遂ニ之ヲ放逐ス及ヒ他人ヨリ某へ持歸ケノ儀ヲ托セラル、衣裳ヲ沽却或ハ典賣ニ代價費用スル類費用受寄財產律ニ照依シ可然或ハ一時融通ノ為ノ費用シ還償ノ意ヲ有ル者ハ同ノ通ハ其類令改訂指 監督益ヲ以テ論シ情狀ヲ酌量シテ減善スヘシ  
 ○八年第廿五号濱田縣同 三月八日  
 士族佐伯哲吉他ハヨリ金五十八枚届方被

凡火ヲ放テ故ナラニ公廨倉庫及ヒ民舎ヲ燒シ者ハ皆斬首シ燒燬ニ至ラサル者ハ流三等。
放火

キ者ハ減セス其各居ニ係ル者ハ等親尊卑ヲ論セス並ニ致人燒死ト罪同。
第二百七十六條 凡火ヲ失シテ人ノ山林柴草及ヒ空閑房屋若シハ田場積聚ノ物ヲ延焼スル者ハ官私ヲ分シ人ノ宅舎ニ延焼スルニ二等ヲ減ス
第二百七十七條 凡盜犯火ヲ用ヒテ門闕戸樞ヲ燒燬シ及ヒ燭炬ヲ持シ期セシテ失火ニ致ス者ハ懲後三年若シ盜罪重キ者ハ重キニ從テ論ス
放火條例
第二百七十八條 凡火ヲ放テ人ノ空閑房屋及ヒ田場積聚ノ物ヲ燒シ者ハ懲後七年未シ燒燬ニ至ラサル者ハ懲後三年

相頼因窮ノ内停長病勞金子手廻リ次第償却可為トテ書狀開封シ金五十四兩費用セシ処素ト盜心ヲ以行ヒシニ非ス平素親友ノ間柄ホヨリシテ開封一時金子費用セシ者云々同ニ人ノ寄託スル所ノ書狀ヲ開封シテ以テ不應爲輕重問フ但書狀ハ費用受寄財產律ニ照依シテ論シ酌減スベシ  
 ○八年第廿九号滋賀縣同 三月十二日  
 費用受寄財產ノ贓ナルヲ知テ受ル者ハ從トナシテ論シ故買スル者ハ坐賍ヲ以テ論シ三等ヲ減シ如何條或ハ同ノ通  
 ○親屬ヨリ財物ノ寄託ヲ受ケ取テ費用スル者ハ坐賍ニ一等ヲ減シ親屬相盜條ニ減シ推衡ニ仍リ流等シ可然ヤ令各号ノ親屬ハ何ノ通  
 ○九年第五十六号詔野縣同 五月四日  
 一寺住職ノ僧侶ニシテ該寺極越寺準ノ動不動產若シハ傳來ノ什品ヲ典賣或ハ沽却シ私用ニ費スル者ハ費用受寄財產條ニ依テ論シ該寺旧來ノ負債ヲ抵償スルハ私用ニ費スル者ニ一等ヲ減シ可然  
 ○指令録第一号京都裁判所同 三月二日

凡火ヲ放テ故ナラニ公廨倉庫及ヒ民舎ヲ燒シ者ハ皆斬首シ燒燬ニ至ラサル者ハ流三等。
放火

第二百七十九條 凡火ヲ放テ故ナラニ自己ノ房屋ヲ燒シ者ハ懲後九十日未シ燒燬ニ至ラサル者ハ一等ヲ減ス若シ期セシテ公廨倉庫及ヒ民舎ヲ延焼スル者ハ懲後二年半因テ財ヲ盜ム者ハ懲後終身。
第二百八十條 凡火ヲ放テ人ノ空閑房屋ヲ燒キ期セシテ人ノ宅舎ニ延焼スル者ハ懲後十年。
第二百八十一條 凡火ヲ放テ人ノ宅舎ヲ燒キ未シ燒燬ニ至ラサル者ハ二照シ懲後十年ニ處スル外若シ雇人等家長ノ督責ニ苛迫シ一時脱身ヲ圖リ縱ニ火ヲ放テ未シ燒燬ニ至

新律綱領 ○雜犯律

改定律例 ○雜犯律



料店ニ飲食物ヲ注文スルニ依リ該店ニ  
 二盛り遣ハスヲ食用シ其末右器ヲ擅ニ  
 賣却シ代償費用スル者アリ右ハ代償ヲ  
 賍ニ計ヘ窃盗ニ準シ處分スヘキヤ將テ  
 料店ヨリ既ニ該家ニ遣シ置モノニ依リ  
 受寄ノ財品ト見做シ費用受寄財産律ニ  
 依リ可科哉○一時融通ノ為メ賣却スル  
 者ハ費用受寄財産律ニ依ル  
 ○指令録第十号京都裁判所同 四條 三  
 他人ヨリ貸金取立ノ依託ヲ受ケ委任状  
 ヲ取負債主ニ應對シ返却ヲ請テ借  
 主ニハ未タ受取ナル旨ニ詠リ中間之ヲ  
 費用シ追テ償還スル所存ニテ余策中費  
 費露セシ者アリ右ハ窃盗條例客屋金庫庫  
 等ノ看守スル物品ヲ盗ニ準シ窃盗ニ  
 等ヲ加罪ヲ可治ヤ得仍ホ費用受寄財産  
 律ニ可依哉  
 第二條ノ者若効スルニ償還ニ意アルト  
 口供スト雖モ其実資力ナキ者及其始ヨ  
 リ冒認ノ意アル者如何可處哉 ○第二  
 三條費用受寄財産律内死失ト詐言スル  
 ヲ以テ論ス  
 ○八年第十九号大坂裁判所同 四條 三  
 遺失ノ金ヲ得テ官ニ送ラス於内若キテ

費用受寄財産  
 凡人ヨリ財物畜産ノ寄託ヲ受ケ輒  
 シ費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等  
 ヲ減ス。罪徒二年半ニ止ル。死失ト詐言  
 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ。罪徒三年  
 ニ止ル。並ニ物ヲ追シテ主ニ還ス。其水  
 火盜賊ニ費失セラレ畜産病死スル者ハ  
 論スルコト勿レ。  
 得遺失物  
 凡遺失ノ物ヲ得ルハ官ニ送ル可シ。官  
 物ハ全シ官ニ入レ。私物ハ一半ヲ其主  
 ニ給シ。一半ヲ得ル人ニ給ス。如シ三十  
 日内ニ其主ナケレハ全シ給ス。若シ官  
 ニ送ラサル者官物ハ坐贓ヲ以テ論シ

ラサル者ハ情ヲ量リ。三等ヲ減シ。懲  
 役三年。  
 得遺失物一條例  
 第二百八十二條 凡水中沈没ノ物ヲ  
 得レハ遺失物ヲ得ルヲ以テ論ス。  
 第二百八十三條 凡遺失物ヲ得ルニ物  
 品盜贓ニ係ルト雖モ私物ナレハ一半  
 ヲ其主ニ給シ。一半ヲ得ル人ニ給ス  
 第二百八十四條 凡官吏遷卒遺失物  
 ヲ得レハ所部内外ヲ問ハス。主アル  
 ハ全シ其主ニ還ス。如シ三十日内ニ

花賣スルノ後始テ非ヲ覺リ官へ首スル  
 者ハ首ヲ聽スト虽モ欠ク野ノ數ヲ計ヘ  
 賍ニ坐シ一等ヲ減シ罪ヲ科シ資力ノ限  
 リテ追シ失主ニ給スヘキヤ若シ全數ヲ  
 備ヘテ首スル者ハ全免シテ主ト分給シ  
 主ナキ者ハ全給スヘキヤ○同ノ通  
 ○八年第九十八号  
 東京裁判所檢事局同 十二月十七日  
 他人ヨリ遺失物ノ情ヲ知テ受ル者アリ  
 右實ト受ル者ノ處置如何心得可然ヤ  
 ○遺失物ノ情ヲ知テ受ル者ハ拾得ル  
 者ノ從ト為シテ論スヘシ  
 ○九年第七号度會縣同 一月廿二日  
 遺失物ヲ得官ニ送ラレハ云々主アル物ヲ  
 追シテ主ニ給シ主ナキハ官ニ入ルト若主  
 ナクシテ物品官私ノ分別ナキモノハ私物  
 ト見做シ處分シ他日官物ナルヲ顯ルト  
 臣失出スル者ノ權衡ヲ取リ賄斷ニ不及  
 シテ可然ヤ○賄斷スルニ及ハス  
 ○九年第七号  
 和歌山縣同 一月廿二日  
 遺失物ヲ得テ官ニ送ラサレハ賍ニ坐シ  
 私物ハ一等ヲ減スルモ若シ事主ニ尋問  
 セラレテ尚隱匿シテ知ラスト供シ物品

物ヲ追シテ官ニ還ス。私物ハ一等ヲ減  
 シ主アルハ物ヲ追シテ主ニ給シ。主ナ  
 キハ官ニ入ル。  
 若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得  
 ル者ハ並ニ官ニ送リ。地主ト分給セシ  
 ム。隱シテ送ラサル者ハ主ニ分ツ可キ  
 ノ數ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論シ。一等ヲ減  
 ス。仍ホ地主ト分給セシム。

其主ナケレハ得ル者ニ給ス。  
 第二百八十五條 凡一切應禁ノ物ヲ  
 得レハ遺失及ヒ埋藏若シハ沈没ヲ  
 分タス。一躰ニ官ニ没入ス。  
 第二百八十六條 凡人邸宅内ニ於テ  
 遺失物ヲ竊取スル者ハ竊盜ニ準シ  
 テ論ス  
 同九年四月十九日第五十五号御布告  
 新律綱領得遺失物律左ノ通改正シ  
 改定律例第二百八十二條第二百八  
 十三條第二百八十四條第二百八十  
 五條第二百八十六條ヲ削除候條此  
 旨布告候事  
 凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス

新律綱領 ○雜犯律

改定律例 ○雜犯律





ト心得可然ヤ同ノ通但シ地所ノ違入  
ノ者ハ貸券買取証文ニ照シテ心得ハ  
得ルヲ以テ其罪ノ輕重ハ別ト心得ハ  
○九年第五十九号警視廳伺 五月十七日  
萬世八号ヲ以自今大體服者用軍人三  
々帶刀被禁者違犯ノ者ハ其刀可取揚  
御布告相成候ニ付テハ違犯ノ者有之即  
ハ裁判所へ可送致哉又ハ當廳ニ於テ直  
處分可致哉且勅差官位幸族ニテ同斷  
節如何可取計哉

○違犯ノ者ハ其聽ニ於テ処分シ裁判所  
へ送致スルニ及ハス勅差官位幸族ニテ  
トモ直子ニ處分シ苦シカラス

○九年第五十九号警視廳伺 五月十七日  
許可ヲ得ヌシテ坑物ノ試掘ヲ為ヌモノ  
○情ヲ量リ違令輕重ニ問フ

○同上試掘ニテ得タル産鑛ヲ恣ニ賣却  
スルモノ及ヒ未賣セサル者

○産鑛ハ賣却スル代價共官沒ス

○八年第三十二号筑摩縣伺  
勅差判任官及ヒ等外吏ノ笠燧灯ノ標号  
ハ先キニ御制定有之候所平人ニテ判任  
官ノ笠ヲ用ユル者アリ此ノ如キ者ハ立  
取上テ違令ノ輕キニ問ヒ可然ヤ○違式  
輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス

金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルハシ
第十一條 凡警察官吏ナル者ハ所部 ノ内外ヲ問ハス遺失ヲ得レハ速ニ 之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還付シ其 主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス
第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ 遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス
第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札 等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得 スト雖モ物主ハ得者ニ其費用價メシ
第十四條 凡遺失物及ヒ逃走畜類ヲ 得若ク埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送 還セス或物主其主エルトテ證明スルニ肩 認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四十。輕キ者  
ハ一等ヲ減ス。

凡令ニ違フ者ハ  
後百日。輕キ者ハ一等ヲ減ス。

凡式ニ違フ者ハ  
後二十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス。

凡二人以上同ク不  
應為ノ犯ル者其首者後三十日ニ  
減ルハ從ハ。懲後二十日。首タル者懲  
後七十日ニ減レハ。從ハ。懲後六十日  
ニ科ス。若シ同犯輕重ノ分アレハ不  
應輕重ニ分擬シ首徒ヲ以テ論セス

凡二百九十七條 凡傳像ヲ乘毀スル者

○八年第四十五号愛知縣伺 十月十日  
懲役人ノ親戚若シハ他人ヨリ衣服等ヲ  
贈與スルノ際其中ニ食物ヲ包蔵シ贈ル  
者アリ獄則中正條ナキヲ以テ違式輕重  
ニ問ヒ贖ヲ聽シ可然ヤ○違式輕ニ問ヒ  
贖ヲ聽ス

○八年第五十三号京都裁判所伺 四月十日  
訴訟審判中ノ者他管ニ事故アルトテ當  
廳へハ何等相届ケス止メ其村吏ニノミ  
届ケ置キ出行スルアルハ其村吏ニハ届  
ケ置クトモ當廳へ届ケ出テサル項ヲ  
以テ違式輕重ニ問ヒ可然哉○違式輕ニ  
問ヒ贖ヲ聽ス

○九年第十七号堺縣伺 二月十三日  
公事ニ付人民呼出ノ際當日制限違參並  
不參スル者七年本首申第廿一号御布違  
ニ依リ違式輕重ニ問ヒ贖罪ニ處シ未候  
處辭限違隔ノ人民ニ於テハ多々道路ニ  
時刻ヲ違シ到着制限違々致候者有之價  
然ニ付其事情酌量ノ上違式註違ニ區分  
シ裁決仕度候○違式註違ニ問ヒ相當  
ノ罰金ヲ科スヘシ 九年第五十一号  
○九年第五十一号 凡令ニ違フ者ハ  
内通區ニ處分致度ハ同ノ通トアリ

○八年第十五号新治裁判所伺

凡令ニ違フ者ハ 後百日。輕キ者ハ一等ヲ減ス。
凡式ニ違フ者ハ 後二十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス。
凡二人以上同ク不 應為ノ犯ル者其首者後三十日ニ 減ルハ從ハ。懲後二十日。首タル者懲 後七十日ニ減レハ。從ハ。懲後六十日 ニ科ス。若シ同犯輕重ノ分アレハ不 應輕重ニ分擬シ首徒ヲ以テ論セス
凡二百九十七條 凡傳像ヲ乘毀スル者

凡令ニ違フ者ハ  
後百日。輕キ者ハ一等ヲ減ス。

凡式ニ違フ者ハ  
後二十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス。

凡二人以上同ク不  
應為ノ犯ル者其首者後三十日ニ  
減ルハ從ハ。懲後二十日。首タル者懲  
後七十日ニ減レハ。從ハ。懲後六十日  
ニ科ス。若シ同犯輕重ノ分アレハ不  
應輕重ニ分擬シ首徒ヲ以テ論セス

凡二百九十七條 凡傳像ヲ乘毀スル者

新律綱領

○雜犯律

改定律例

○雜犯律





上告スルモノト同シシ區別ハ之アル間  
 數裁何之通  
 ○士法一應ノ私罪ニシテ禁獄ノ處分ヲ  
 受タル者該地方ニ於テ未タ禁獄ノ設ナ  
 罪人拒捕  
 明治十年  
 律  
 護セシメ置ニ若潛出歩行等致ニ於テハ  
 其以上告ニテ原裁判ヲ破毀シ又ハ其擬律  
 ヲ平翻スルハ其覆審ノ本罪ニ一等ヲ加  
 至ル者ハ絞  
 所傷以上ニ  
 出ノ翌日ヨリ起算シ其覆審ノ本罪ヲ科  
 シ其他ニ投箱シ及ヒ殺飲スル等ニ係レ  
 ハ懲役七十日聽候ノ處分ヲ併科スヘ  
 キ哉○覆審ノ本罪ニ一等ヲ加フ可シ  
 ○第四條ノ若若上告不當又ハ理ナシト  
 決スルニ係ラハ其逃走罪如何可處哉  
 ○第四條ノ通心得ヘシ  
 ○八年第廿四号大分縣伺 二条内  
 右看守人ヲ例第三百十條ニ照シ科斷ス  
 ルモ其逃走入役囚ノ棒鑊ハ猶本法ニ依  
 リ可然哉○伺ノ通 第一條不覺失田ノ

ハ斬從タル者ハ各一等ヲ減ス  
 若シ罪人兇器ヲ持シ拒捕スルニ捕吏  
 之ヲ格殺シ及ヒ囚逃走スルニ捕吏之  
 ヲ逐殺シ若シハ囚追逐ニ囚ヲ窘迫シ  
 自殺スル者ハ並ニ論スルヲ勿レ  
 若シ罪囚逃走スト雖モ已ニ拘執ニ就  
 キ及ヒ拒捕セサルニ捕吏之ヲ殺シ或  
 ハ折傷スル者ハ各關殺傷ヲ以テ論ス  
 若シ死罪ニ該ル罪人ヲ捕吏一時忿激  
 レテ擅殺スル者ハ杖九十  
 獄囚脱監及反獄逃走  
 凡罪ヲ犯シ囚禁セラレテ脱監及ヒ越  
 獄レテ逃走スル者ハ各本罪上ニ二等  
 ヲ加ヘ罪流三等ニ止ル本罪死スヘキ

獄囚脱監及反獄逃走條例  
 第二百九十三條 凡脱監及ヒ越獄レテ  
 逃走スル者ハ各本罪上ニ二等ヲ加罪  
 流三等ニ止ル律故ニ懲役終身ニ止ル

○八年第四十五号受知縣伺 十條内  
 撥産人懲役人ノ逃走ヲ報シ囚テ逃走ヲ  
 致サルルヲ得ル者アリ右ハ無罪者ニ  
 什減等ノ法ナケレハ金二田以下ヲ以テ  
 適宜賞與シ可然哉○懲賞トシテ五日又  
 ハ一週日ノ間當食ノ外魚肉等ヲ加給ス  
 可シ  
 ○八年第八十三号練上等裁判所伺 十條内  
 懲役限内逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者  
 後犯ノ罪懲役終身ニ至ル者ト其本罪  
 懲役終身ヲ科シ尚棒鑊ヲ加ヘ可然ヤ  
 ○伺ノ通  
 ○八年第九十五号東京府伺 十二月九日  
 懲役人滿限ニ至リ惡心未タ俊ラサル者  
 中監獄則第十條ニ依リ仍ホ拘留服役中  
 逃レテ企ツテ同囚知覺シ訴出ル者ハ例  
 第三百四條ニ依リ御處分相成候哉然レ  
 ハ其都度裁判官ヘ稟告可致候○懲役滿  
 期ニ至リ惡心未タ俊メス懲役監ニ在ル  
 無罪人逃走ヲ企ルヲ報告スル者有罪人  
 ナレハ第三百四條ニ依ル無罪人ナレハ食  
 料等ヲ増シ通宜ノ褒賞ヲ施スベシ  
 ○九年第二号大阪裁判所伺 一月九日  
 士族犯罪禁獄申付等當宿ニ於テ禁獄ノ

者ハ常律ニ依ル  
 若シ罪囚反獄レテ逃走スル者ハ皆斬  
 同牢ノ囚人反情ヲ知ラサル者ハ坐セス  
 其罪囚水火震災ノ變ニ囚テ逸出シ投  
 擲スル者ハ斬絞以下各一等ヲ減ス

第二百九十四條 凡反獄レテ逃走ス  
 ル者ハ皆斬ニ處スル律ヲ改メ首ハ  
 斬 從ハ懲役終身  
 第二百九十五條 凡罪囚糾合シテ越  
 獄スルニ從ハス實ニ據テ首報ラ因  
 テ罪囚即時ニ獲ニ就キ脱逃ヲ致サ  
 ルヲ得ル者及ヒ反獄ノ情ヲ知テ首報  
 スル者ハ斬絞以下各本罪ニ一等ヲ減ス  
 第二百九十六條 凡脱監及ヒ越獄レ  
 テ逃走スル者再逃以上ハ又二等ヲ  
 累加シ罪懲役終身ニ止ム懲役場ヲ  
 逃走レ又監獄ヲ脱越ル者罪亦同  
 第二百九十七條 凡犯人責付内ニ逃  
 走スル者ハ本罪ニ二等ヲ加フ若シ

新律綱領

○捕亡律

改定律例

○捕亡律

振合ヲ以テ一室ニ締リ付ケ置候所外人ニ接見シ及他人ノ囑托ヲ受ケ又書ヲ認メ遣ハス等ノ罪ヲ犯ス者何ノ刑ニ可處哉律例明文無之ニ付其事情ヲ斟酌シ不應爲輕重或ハ違式等ニ問ヒ前犯ノ日數ニ通算シテ處置シ其他罪ヲ犯シ律二明文アル者ハ懲役人又犯罪條例ニ比照シ處置シ可然哉若シ禁獄滿期ノ後發覺シ律例罪ヲ可准者ニ該ラハ賅ヲ聽シ可然哉將々寄留主ノ如キハ例第二十條門扉ヲ鎖サ、ス家屬ハ出入スルヲ聽ズト有之候ハ其失防ノ罪問ハスシテ可然哉(○)禁獄中外人ニ接見シ又ハ囑ヲ受ケ又書ヲ作爲スル等ハ改定律例第三百七條照シ處分ス其他ノ犯罪ハ種類ニ依テ處分殊ナルニ付一概ニ指合ニ及ビ難シ罪名ヲ指定シ何出ヘシ(○)寄留主ハ不罪名ヲ指定シ何出ヘシ(○)寄留主ハ不罪名ヲ指定シ何出ヘシ(○)寄留主ハ不罪名ヲ指定シ何出ヘシ

徒流人逃

凡徒流ノ囚人役限未ク滿スレテ逃走スル者ハ杖七十仍ホ配所ニ發ラ其徒流原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘後ハ已ニ後過セ月日ハ並ニ通算ス再ヒ逃走スル者ハ絞若レ已ニ斷決セ徒流ノ罪囚ヲ發遣シ未ク配所ニ到ラス中途ニシテ逃走スル者モ罪亦同

懲役人逃條例

原徒流人逃律  
第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人限内逃走スル者ハ杖七十故テ棒鎖言再ヒ逃走スル者絞改テ懲役終身  
第二百九十九條 凡懲役百日以下ノ囚人限内逃走スル者ハ棒鎖一日仍ホ原犯ノ日限ニ照シテ新ニ拘後シテ再ヒ逃走スル者ハ棒鎖二日更ニ懲役一年ニ入ル若シ外ニ在テ又百日以下ノ罪ヲ犯セハ原犯後犯ヲ通算シテ新ニ拘後ス其一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止テ後犯ノ年限ニ照シ

フルトハ首免ヲ與フベシ  
○九年第十八号新海縣例 二月十七日  
懲役囚人外後先ニ於テ懲役監人ノ逃走致シ候ヲ見当リ捕獲スル即本罪減等又ハ賞與等ノ儀無之哉(○)懲治監ニ在リ逃走スル者有罪人ニ係ルハ律例第三百四條ニ依リ無罪人ナレハ食料等ヲ増シ通宜ニ賞與スベシ  
○九年第五号諭野縣例 三月三日  
例第三十一條老小癡疾者云々ト右不能曉者折半若シハ減五等懲役中ニ在テ逃走スル者ハ婦女ト同ノ棒鎖ニ處セスハ手御省違第四号及ヒ例第五條ノ棒鎖日數ニ照シ開室ニ換可然哉(○)同ノ通  
○老小癡疾者懲役一年以上ノ罪ヲ犯シ五等ヲ減シテ百日以下ニ至ル者原刑一年以上ニ付ト雖輕減シテ百日以下ヲ科スルヲ以テ服役中逃走スルモ百日以下ノ囚人ヲ以テ論シ再逃スルモ懲役終身ニ入レサル哉(○)同ノ通  
前條ノ老小癡疾者五等ヲ減スルモ仍ホ懲役一年以上ニ在ル者再逃スルハ例第四十八條ノ權衡ニ依リ管ハ原刑懲役五年ナルニ五等ヲ減シテ一年ニ處スル如

同罪罪流三等止ル

財ヲ受ル者ハ  
明治七年二月七日第十六号御布告  
徒流人逃亡條改正  
主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走ヲ覺ル者ハ名ニ答四十一名毎一等ヲ加ヘ罪杖一百ニ止ルノ律ヲ改メテ未決ノ罪囚ト同シ主守不覺失囚律ニ依ル

更ニ科斷ス

第三百條 凡懲役一年以上ノ囚人逃走スル者ハ例ニ照シ棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘後スト雖モ若シ逃走シ外ニ在テ又三年以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年限原犯ノ年限合テ再ヒ拘後スルモ亦四年ニ過ルヲ得ス百日以下ノ罪ヲ犯ス者又原犯ニ合セテ拘後ス其五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止テ後犯ノ年限ニ照シテ科斷ス  
第三百一條 凡懲役五年以上ノ囚人限内逃走スル者モ亦例ニ照シ棒鎖三日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘後ス雖モ若シ逃走シ外ニ在テ又五年

新律綱領

○捕七律

改定律例

○捕七律















ハ何ノ經ス處斷レ可然哉④收贖ス可キ者ハ審判ヲ乞フニ及ハス

○七年第五十九号高知縣伺 三月廿五日 三谷内務五 藤ノ托ニ奉答料彈未經前病ニ罹リ其病治スル目的然之紅問難調及衆証明ヨラザル者如何可處置哉⑤犯罪人重病ニ罹リ獄庭ニ出ル能ハサレハ馬ト檢査ヲ尽レテ監禁確實ノ上親屬ニ保管セレノ病ノ愈ルヲ以テ推問ス可レ

○七年第八十三号 田縣伺 五月五日 三谷内務五 士族懲役百日以下ノ破廉耻甚罪ヲ犯レ徳願トナルノ後發覺ノ罪證明ヨナル者ハ結果ノ持テ處分ス可レ

○七年第九十一号開拓使問合 五月廿七日 實斷三十日收贖六十日ニ罪并答スルニ付收贖折減添ニ照シ實斷三十日ニ可處ヲ收贖六十日ニ失ハ

二十日ニ坐レ候哉又ハ本罪三十日ヨモ減レ減シ盡シテ科ナント云フ從テ可然哉⑥實斷收贖并答スル者ハ改定律例第七十四條ノ通り各等々ハ一ノ實斷ニ依ル本支ノ如キハ所罪不ヨ律例ニ依リ先出トナン六十日ヨリ六等ヨ減シ減シ尽

**獄囚誣指無罪人**

凡罪囚獄ニ在テ無罪人ヲ誣指スル者ハ誣告ヲ以テ論シ其本犯罪重キ者ハ重キニ從テ論ス

若シ官吏獄囚ヲ鞫問スルニ非法ニ拷訊シ故サレニ教令ヲ行ヒ無罪人ヲ誣指スル者ハ故入人罪律ヲ以テ論ス

若シ囚ヲ鞫ヒテ證佐ノ人實情ヲ言ハ故サレニ證證ヲ行者ハ罪人ノ罪ニ二等ヲ減ス

**出入人罪**

凡官吏故サレテ人ヲ罪ニ出入レ全ク出テ全ク入ル者出入スル所ノ全罪ヲ以テ論ス若シ故サレニ輕テ増シ重ト作

**出入人罪條例**

第三百十四條 凡故サレテ出入レ及ヒ入ルニ失スル罪人ハ已ニ斷了ヲ經ルト雖モ檢擧レテ改正スル

シニ罪ノ科ス可キナレ

○七年第二十号山口縣伺 四月廿四日 凡犯罪ノ確證明瞭ニレテ剛愎通洋供狀有結ニ服セザル者確證ニ依リ可處決哉又ハ悔悟ニ至テ可待哉⑦罪ヲ斷スルロ供結案ニ依ル若シ確證明瞭ニシテ供服セザレハ事實詳細ニ記載シテ伺出ヘレ

○九年第十四号宮崎縣伺 二月廿七日 實斷スヘキヲ誤テ贖シ又贖罪スヘキヲ誤テ實斷スル者如何⑧權衡ニ於テ出入ナケレハ論スルナレ

○九年廿一號長崎裁判所伺 二月廿四日 士族懲役百日以下ノ破廉耻罪ヲ犯シ審判ノ時小頭ヨリ差出ル原籍取調書ニ身分記載無之ヲ不心付本人尙ト申シタルニ泥ニ口供ハ尙ト相認ノ結果ノ未至民ヲ以テ實決シ追テ士族ノ趣殺者スルト云失人ト言フ可ラナルヲ以テ賄斷ニ不及シテ可然哉⑨除族ノ罪ヲ誤テ實決スル者ハ改正ヲ得ル者ニ非サレハ其條服役セシム可シ但本犯尙ト申立ツル上ハ問フヘキナシ

○指令録第七号鶴岡裁判所伺 三月廿日 口供結案ヲ廢スト雖モ仍ホ本罪罪狀ハ

**重テ減シテ輕ト作ス者ハ其増減スル所ノ罪ヲ以テ坐又死ニ至ル者ハ坐スルニ死罪ヲ以テ坐**

若シ罪ヲ斷シテ入ルニ失スル者ハ各三等ヲ減ス出タスニ失スル者ハ各五等ヲ減ス並ニ罪所由ヲ以テ首ト爲ス若シ囚未ク處決放免セス及ヒ放テ還テ獲者クハ囚自死スレハ官吏ノ罪又各二等ヲ減スルナレ聽ス

**管杖不如法**

凡官吏管杖ヲ用ルニ故サレニ法ノ如クセサル者ハ答三十囚テ死ニ致ス者ハ杖一百埋葬金二十五兩ヲ追徴ス管杖ヲ行フノ人ハ各一等ヲ減シ金兩ヲ

ヲ得ヘキ者ハ改正シ其出タスニ失スル者ハ貼斷スルナレ用ヒス

第三百十五條 凡官司屍傷ヲ檢視シテ實ナラサル者ハ懲役四十日仍テ罪ニ増減アル者ハ出入人罪ヲ以テ論ス若シ財ヲ受ケ故サレニ實ヲ以テセザル者ハ故出入人罪ヲ以テ論ス賊重キ者ハ賊ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

新律綱領 ○前獄律

改定律例 ○前獄律

役前ノ如罪案書式ニ照準シ結末右ノ通  
相違不申上云々ノ例語ヲ記載シ且名  
ハ證明白ナリト雖モ頑硬ニテ招承ニ  
服セザルノ犯ハ犯状ニ限リ其罪證ヲ  
詳細記載シ但書ニ承服セザル事由ヲ記  
載シ可然ヤ⑤罪案書式ノ後ハ追テ相違  
候違後前ノ通尤モ招承ニ服セザル者ハ  
調印毎印ニ及ハス  
前條ノ如キ犯人ノ別名宣告又ハ初其罪  
状ヲ述ヘ結末ニ承服セスト雖モ何々ノ  
證アルヲ以何々ノ刑ニ問擬スル旨記載  
シ可然ヤ⑥同ノ通

追徴セス。若シ罪人ノ聲牒刑ヲ受クハ  
キ處ヲ法ニ依リ決打レテ邂逅ニ死ニ  
致ス者ハ論スルコト勿レ。

婦人犯罪

凡婦人輕罪ヲ犯スハ本夫ニ責付レテ  
保管セシム。如シ夫ナキ者ハ親屬鄰保  
ニ責付レテ保管セシム。重罪ハ禁獄ス  
ルコト許ス。違フ者ハ答三十

若シ婦人懷孕レテ罪ヲ犯レ拷訊スヘ  
キ者ハ上條ノ如ク保管シ。産後一百日待テ拷  
訊ス。若シ未ニ産セザルニ拷訊スル者ハ杖九十。

因ニ墮胎スル者。後半年死ニ致ス者ハ流三等。  
若シ懷孕ニ死囚ハ摠婆ニ看視セシメ後ニ  
監禁ス。産期ニ臨ムハ親屬鄰保ニ責付シ

産後一百日ヲ待テ乃チ刑ヲ行フ。未ニ産セ  
スニテ決スル者ハ徒一年半。産シ訖ルモ日限未  
滿スニテ決スル者ハ杖八十。失誤スル者ハ各三等減ス

死囚奏請待報  
凡死囚ヲ奏請シ回報ヲ待タス。輕シ處  
決スル者ハ杖七十。

若シ禁刑ノ日ニ於テ決スル者ハ答三十。  
斷罪不當

凡罪ヲ斷レテ決配スヘキヲ故サラニ  
收賂シ。收賂スヘキヲ決配スル者ハ。故  
出入人罪律ニ依テ一等ヲ減ス。失出入  
ル者ハ。失出入人罪律ニ依テ二等ヲ減ス。  
若シ絞スヘキヲ故サラニ斬レ斬スヘ  
キヲ絞スル者ハ答五十。失誤スル者ハ。

死囚奏請待報條例  
第三百十六條 凡獄已ニ成リ罪死ニ  
該ル者ヲ奏請シ待報内ニ在テ死亡  
スルニ遺骸ハ親屬請フ者アレハ下  
付スルコト聽ス

斷罪不當條例  
第三百十七條 凡收賂ス可キヲ誤テ  
實斷スル者改正スルコト得ヘキ者  
ハ改正シ其實斷スヘキヲ誤テ收賂  
スル者ハ貼斷スルコト用ヒス。

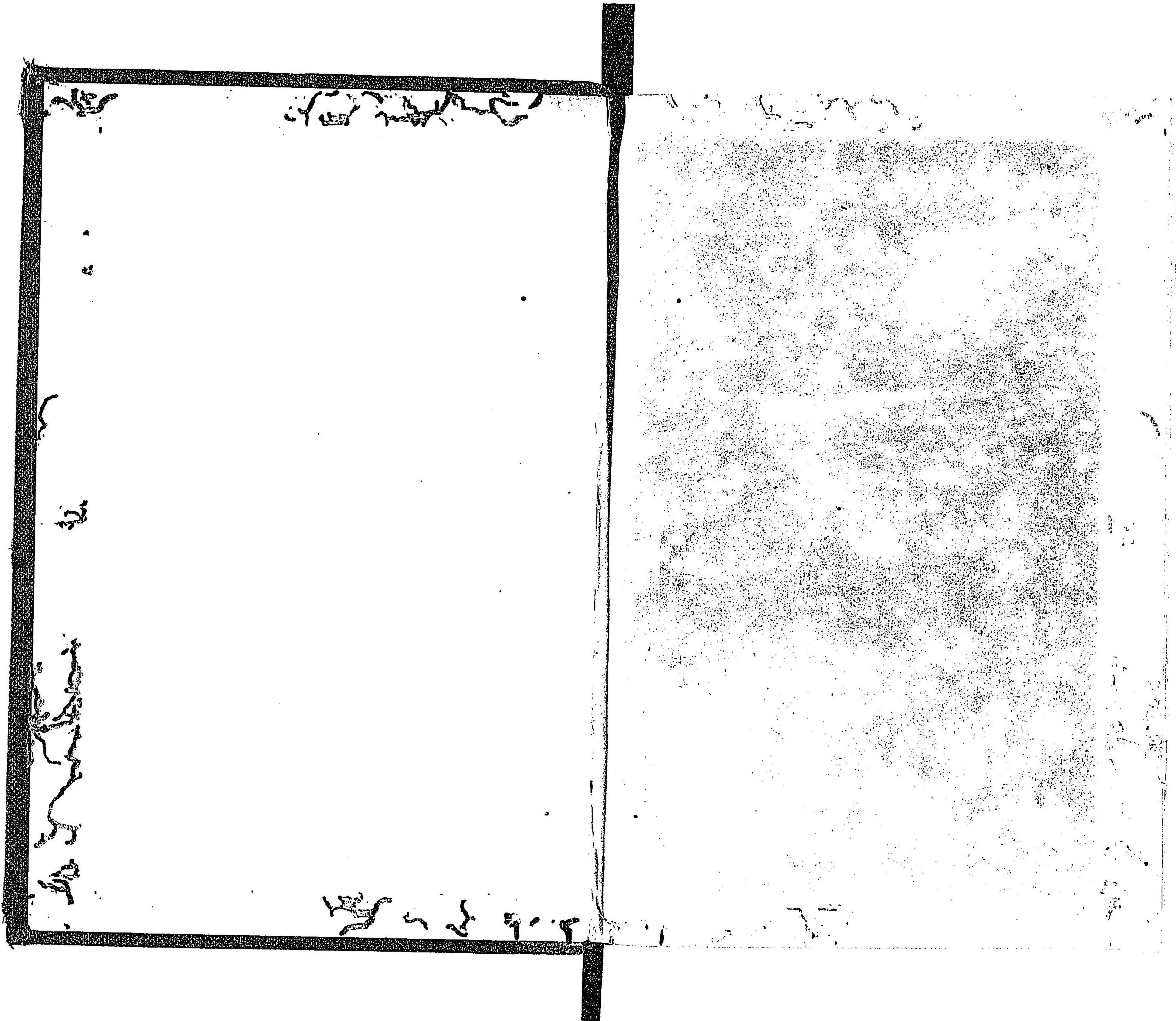
第三百十八條 凡罪ヲ斷スルハ口供  
結案ニ依ル。若シ甘結ヒスレテ死亡

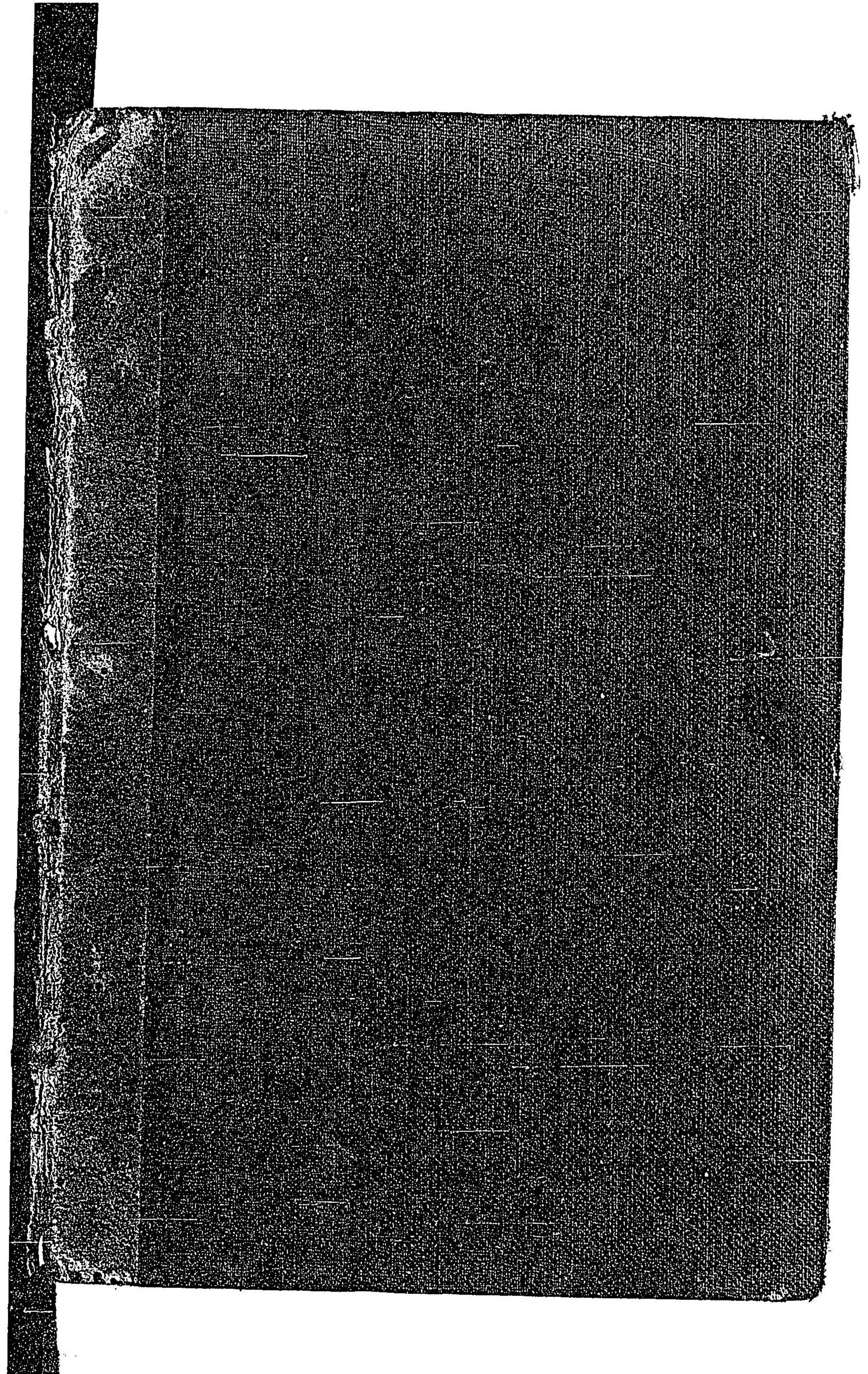
新律網領 ○斷獄律  
改定律例 ○斷獄律











東京圖書館	
函六二	門 新
架四	部 一
號	類 五

036271-000-6

特14-137

新律綱領・改定律例改正条例

石田 可則／編

M12

BBP-0991

